tc electronic®

G•MAJOR 2

GUITAR EFFECTS PROCESSOR

ユーザーマニュアル

重要 - 安全のために

正三角形に括られた矢印付きの落雷マークは、人体に対して電気ショックを与えうる、危険な高電圧の絶縁されていない部品が本体内部に配置されていることを示します。

正三角形に括られた「！」サインは、本体の使用上、あるいはサービス／メンテナンス上で、重要な情報が製品に同梱の書類に含まれていることを示します。

1 必ずお読みください。
2 この書類は手の届くところに保管してください。
3 全ての警告をお守りください。
4 全ての指示に従ってください。
5 本機を水気の近くで使用しないでください。
6 本体の手入れは、乾いた布で乾拭きしてください。
7 換気に必要となる本体の開口部は塞がないでください。本体の設置は、製造者の指示に従ってください。
8 ラジエーター、ヒート・レジスター、ストーブ、音響用アンプリファイア等、またそれに限定されないあらゆる熱を発する機器の近くに設置しないでください。
9 極性プラグ、あるいは接地プラグの安全機構に手を加えないでください。極性プラグは、二つの金属ブレードの内、片側が大きく設計されています。接地プラグは、二つの金属ブレードに加えてアース用のピンがございます。これらは、安全のための機構です。付属のプラグがコンセントの形状に合わない場合は、旧式のコンセントの更新について最寄りの電気工事事業者までご相談ください。
10 電源ケーブルとプラグは、踏み付けられたりはさまれたりしない様に設置してください。特に、プラグとコンセント、そして本体と電源ケーブルが接続される周りにはご注意ください。
11 本機に設置するアクセサリーや装着器具は、製造者指定のもののみをご使用ください。
12 カート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルは製造者が指定するものまたは本体との組み合わせで販売されているもののみを使用してください。カートを使用する際には、カートと機器の移動時の転倒や荷物の落下による事故にご注意ください。
13 落雷を伴う天候の場合、あるいは本機を長期間使用しない場合は、本機の電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
14 本体の点検・修理が必要となった場合は、必ず認定技術者までご連絡ください。電源ケーブルやプラグが破損した、液体を本体にこぼした、本体シャーシ内に異物が入ってしまった、雨や過度の湿度にさらした、本体の動作異常が生じた、本体を落としたなど、原因に関わらず本機に破損が生じた場合はサービスが必要です。

警告！

- 本体に水が垂れたり、はねる環境での保管・使用は避け、花瓶等液体の入った物を本体の上に置かないでください。電気ショック、あるいは火事等の恐れがあります。
- 必ずアースを正しく接続してください。
- 製品に同梱されているのと同様の、アース付３芯の電源ケーブルを使用してください。
- 適切な電源ケーブルとプラグ形状・動作電圧は地域によって異なります。
- 以下の表に従い、各地域の規格に準拠した電源ケーブルを使用してください。

電圧	プラグ規格
110-125V	UL817 and CSA C22.2 no 42.
220-230V	CEE 7 page VII, SR section 107-2-D1/IEC 83 page C4.
240V	BS 1363 of 1984. Specification for 13A fused plugs and switched and unswitched socket outlets.

- 本機は、電源ケーブルの抜き差しが容易に行える、コンセントの近くに設置してください。
- コンセントから完全に絶縁するには、パワーサプライのケーブルをコンセントから外してください。
- パワーサプライのプラグは容易に抜き差しができる様にしてください。
- 閉じられた空間に設置しないでください。
- 本体を開けないでください。人体に対して有害な高電圧の電気ショックの恐れがあります。

注意

本マニュアルに明示されていない本体への変更・改造を行った場合、本機器を操作する権利を失うことがあります。

サービスについて

- 本体内にユーザ保守可能なパーツはございません。
- サービスが必要となった場合は、必ず認定の技術者までご連絡ください。

重要 - 安全のために & 海外準拠規格に基づく記載

EMC/EMI

本機器は FCC 基準 Part 15 に準ずる Class B デジタル機器の制限事項に適合するための試験に合格しています。

これらの制限事項は、居住地域での設置時に生じうる有害な電波障害を規制するために制定されたものです。本機器は無線周波エネルギーを生成・使用しており、これを放射することがあります。指示に従った設置と使用を行わないと、無線通信に障害を及ぼす可能性があります。しかしながら、特定の設置状況において電波障害を起こさないという保証はありません。本機器がラジオやテレビの受信に障害を与えていないかを判断するには、本機器の電源を落としてから再投入してください。障害を及ぼすことがわかった場合、次の方法で障害の解消を試みることを推奨します。

- 受信アンテナの方向、設置場所を変更する
- 本機器と受信機の距離を遠ざける
- 本機器を受信機とは別の系統の電源回路に接続する
- 必要に応じて、販売代理店、または経験のある無線／TV の専門技術者に問い合わせてください。

For the customers in Canada:

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

本 Class B デジタル機器は、カナダ ICES-003 に準拠しています。

Certificate of Conformity

TC Electronic A/S, Sindalsvej 34, 8240 Risskov, Denmark, hereby declares on own responsibility that the following product:

G-Major 2 – Guitar Effects Processor

– that is covered by this certificate and marked with CE-label conforms with following standards:

EN 60065 (IEC 60065)	Safety requirements for mains operated electronic and related apparatus for household and similar general use
EN 55103-1	Product family standard for audio, video, audio-visual and entertainment lighting control apparatus for professional use. Part 1: Emission.
EN 55103-2	Product family standard for audio, video, audio-visual and entertainment lighting control apparatus for professional use. Part 2: Immunity.

With reference to regulations in following directives:

73/23/EEC, 89/336/EEC

Issued in Risskov, January 2009

Anders Fauerskov

Chief Executive Officer

目次

イントロダクション

重要 - 安全のために ..... a-b
海外準拠規格に基づく記載 ..... b
目次 3
イントロダクション 4
フロントパネル 6
リアパネル 8
シグナルフロー図 9
基本セットアップ 10

基本操作

ディスプレイ 12

RECALL - プリセットのリコール（呼び出し） 13
プリセットのエディット 13
STORE - プリセットのストア（保存） 13
MIDI を経由したプリセットのバックアップ 14
GLOBAL - グローバル・メニュー 15
MIDI メニュー 18
MOD メニュー 19
外部コントロール 20
モディファイアーによる外部コントロール 20
チューナー 22
リレー 24
ROUTING - ルーティング・メニュー 26
ハウツー集 27

エフェクト・ブロック

エフェクトについて 29
エフェクト・メニューの基本操作 29

GATE & EQ - ゲート & EQ
Noise Gate - ノイズゲート 29
EQ 30

FILTER - フィルター
WahWah - ワウワウ 31
TouchWah - タッチワウ 31
Auto Wah - オートワウ 32
Resonance Filter - レゾナンス・フィルター 32
Touch Resonance Filter -
　タッチ・レゾナンス・フィルター 33
Tremolo - トレモロ 33
Panner - パンナー 34

COMPRESSOR - コンプレッサー
Compressor - コンプレッサー 35

PITCH - ピッチ
Detune - ディチューン 36
Whammy - ワーミー 36
Octaver - オクターバー 37
Pitch Shifter - ピッチ・シフター 38
Intelligent Pitch Shifter -
　インテリジェント・ピッチ・シフター 39

MODULATION - モジュレーション
Classic Chorus - クラシック・コーラス 40
Advanced Chorus - アドバンス・コーラス 40
Tri-Chorus Normal - トライ・コーラス・ノーマル 41
Tri-Chorus Asymmetric - トライ・コーラス・非対称 41
Classic Flanger - クラシック・フランジャー 42
Advanced Flanger - アドバンス・フランジャー 43
Through Zero Flanger Negative -
　スルー・ゼロ・フランジャー・マイナス 43
Through Zero Flanger Positive -
　スルー・ゼロ・フランジャー・プラス 43
Vibrato - ビブラート 44
Vintage Phaser - ヴィンテージ・フェーザー 45
Smooth Phaser - スムーズ・フェーザー 45
Vintage Univibe - ヴィンテージ・ユニヴァイブ 46
Modern Univibe - モダーン・ユニヴァイブ 46

DELAY - ディレイ
Ping Pong - ピンポン 47
Dynamic - ダイナミック 48
Dual - デュアル 48
Reverse - リバース 48

REVERB - リバーブ
Spring - スプリング 49
Hall - ホール 49
Room - ルーム 49
Plate - プレート 49

付録

MIDI インプレメンテーション 51
技術仕様 52
FAQ 53

イントロダクション

この度は、G-Major 2 エフェクト・プロセッサーをご購入いただき、ありがとうございます。
これまでマルチエフェクト・プロセッサーを使用した経験のない方は、G-Major 2 を戸惑いなくクリエイティブに使いこなせるようになるまでに、どれだけの日数がかかるものか不安に思われるかもしれません。しかし、心配は無用です！基本的なニーズの多くをカバーしている豊富な内蔵プリセットを使えば、G-Major 2 をわずか数分で使い始められることでしょう。

またファクトリー・プリセットでは満足できず、G-Major 2 を自分なりにアレンジして使いたい人にとっても、難しい操作はありません。

G-Major 2 をどの様に活用するかを考えた場合、いくつかの可能性が考えられます。

コンパクト・エフェクト風の活用法
コンパクト・エフェクトを使い慣れている人は、各種エフェクトの設定自体は変更せず、エフェクトの ON/OFF の組み合わせでサウンドに変化をつける方法が一番自然と感じられるかもしれません。その場合は、MIDI コントロール・チェンジ情報の送信に対応した外部 MIDI フットコントローラーを接続します。基本的なセットアップを作成したら、複数のコンパクト・エフェクトを操るように MIDI フットコントローラーからエフェクトを個別に ON/OFF できます。

プリセットの活用法
MIDI フットコントローラーからの操作で、エフェクトの組み合わせや各エフェクトの設定自体を変えることも可能です。また、このプリセット切り替え方式の操作は、上記の個別エフェクトの ON/OFF 方式とを併用することもできます。

チャンネル・スイッチング
バッキング用のクリーントーンからリード系の歪みにサウンドを変更したい場合、一般的にはエフェクトの切り替えだけではなく、アンプ側のクリーン／歪みのスイッチングも行わなければなりません。MIDI 経由でアンプのチャンネルを切り替えるには、別途 MIDI スイッチング・システムの投資が必要となりがちでした。G-Major 2 は、リレー・スイッチング機能を内蔵し、プリアンプ／コンボ・アンプのチャンネルを最大 4 チャンネルまでスイッチングできます。

モディファイアー — リアルタイムのパラメータ操作
設定の切り替えだけでは満足を得られず、リアルタイムにエフェクトを変化させたい場合、G-Major 2 のモディファイアー機能を使用します。外部 MIDI コントローラーやエキスプレッション・ペダルに対して、エフェクトのパラメータを割り当てることができます。エキスプレッション・ペダルからエフェクトのレベルやパンニング・スピードを変更したり、音程を変化させることにより、一般的に「ワーミー」と呼ばれる効果などが得られます。

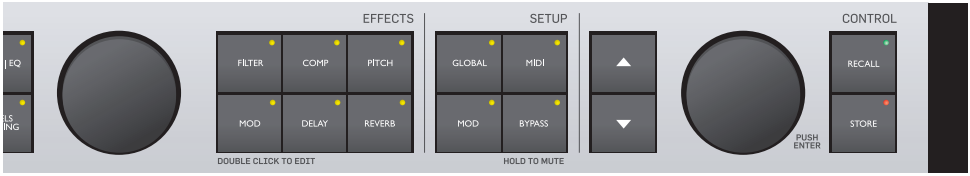
G-Major と G-Major 2 の違い

G-Major 2 は、フロントパネル構成の見直しにより定評ある G-Major の操作性に磨きをかけ、新規エフェクトも搭載。TC の最もポピュラーな機種の一つであった G-Major の機能と操作性が全面的にパワーアップしています。主な改良点は次の通りです：

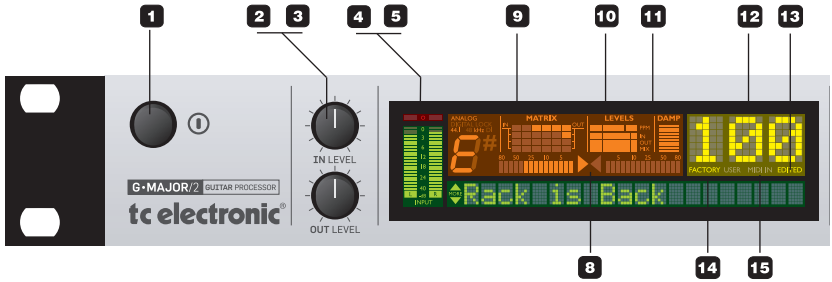
- Univibe - ユニヴァイブ
- Tri-Chorus - トライ・コーラス
- Through-Zero Flanger - スルー・ゼロ・フランジャー
- TC エレクトロニック・リバーブのチューニング見直し
- フィルター／ワウ・ブロックを G-System から完全移植
- リバース・ディレイ
- インテリジェント・ピッチシフト
- モジュレーション・ディレイ
- PC/Mac エディター
- リレー・スイッチング

本マニュアルについて

最新版のマニュアルは www.tcelectronic.co.jp からダウンロード可能です。より詳細の情報やサポートをお求めの場合は、TC のオンライン・サポート・サイト、TC Support Interactive をご参照ください（http://tcjsupport.custhelp.com）



フロントパネル



1 - パワー・ボタン
電源を ON/OFF します。

2 - IN LEVEL ノブ
入力レベルを調節します。

3 - OUT LEVEL ノブ
出力レベルを調節します。

4 - インプット・メーター
入力レベルを示すピーク・メーターです。メーターのレンジは、0、-3、-6、-12、-18、-24、-40dB です。

5 - インプット・オーバーロード LED
この LED は、過大入力レベルによる入力段のオーバーロードか、DSP 内部処理のゲイン増幅等によるオーバーフローを示します。LED が点灯した場合には、インプット・レベルを下げてください。

8 - チューナー・セクション
G-Major 2 は、チューナーを内蔵しています。チューナーは常に作動します。チューニングが合っているときは両方の矢印が点灯します。

9 - MATRIX
G-Major 2 では、エフェクトの内部接続形態をシリアル／シリアル 2 ／セミ・パラレル／パラレルの 4 種類から選択できます。MATRIX 表示は、選択されているルーティングの構造を示します。

10 - LEVELS セクション
編集しているブロックの入出力レベルとミックス・レベルを表示します。

PPM（ピーク・プログラム・メーター）：エフェクト・ブロックのピーク・レベルを示します。

IN メーター：エフェクト・ブロックの入力レベルを示します。

OUT メーター：エフェクト・ブロックの出力レベルを示します。

MIX メーター：エディットしているエフェクト・ブロックのミックス・レベルを示します。

11 - DAMP
ノイズゲート作動時にはノイズのカット量を、コンプレッサー作動時にはコンプレッションの量を示します。

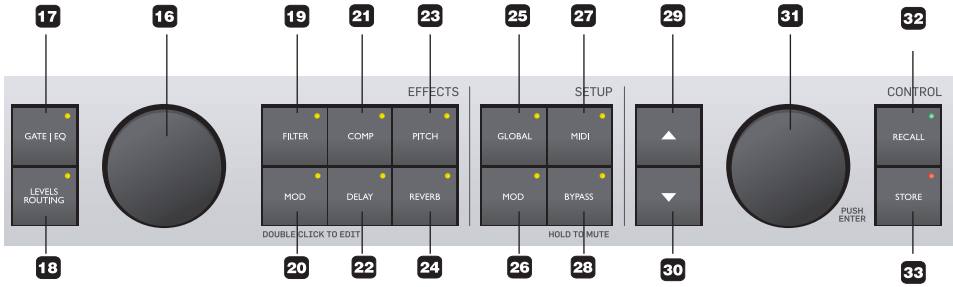
12 - プリセット番号表示
プリセット番号を表示します。番号が点灯している場合は、プリセットが選択されていることを示します。プリセットの変更時には数字が点滅し、RECALL ボタンを押すと選択が確定します。

13 - EDITED
現在呼び出されているプリセットに変更を加えると点灯します。

14 - FACTORY/USER
使用しているプリセットのバンク（ファクトリー／ユーザー）を表示します。

15 - MIDI IN
MIDI 入力信号を検知すると点灯します。

16 - MIX TOGGLE ホイール
個別エフェクトのミックス値を選択します。



エフェクト・ブロック・ボタン概要
EFFECTS セクションのエフェクト・ボタンをクリックすることでエフェクトのオン／オフを行います。ダブル・クリックで選択エフェクトのエディット・メニューに入ります。LED ボタンが点灯している状態は、エフェクト・ブロックがアクティブであることを示します。

17 ～ 24 - エフェクト・オン／オフ & アクセス・キー
エフェクト・ブロックのオン／オフと、エフェクト・ブロックをエディットするためのボタンです。クリックでエフェクトのオン／オフを行ない、ダブルクリックでエフェクトのエディット・メニューにアクセスします。

25 - GLOBAL ボタン
Global メニューにアクセスします。キルドライ、ペダル・キャリブレーション、チューナー基準ピッチ、エフェクト・ミュート等、全体の動作に関わるグローバル・パラメータの設定を行なえます。

26 - MOD ボタン
MOD メニューにアクセスします。MOD は Modifier（モディファイアー）の略で、G-Major 2 のパラメータを外部コントロールする際の各種設定を行なえます。

27 - MIDI ボタン
MIDI に関するパラメータを設定します。

28 - BYPASS ボタン
全てのエフェクトを一括してバイパスします。約一秒ボタンを長押しすると出力はミュートされ、ギターのチューニングなどが無音で行えます。

29/30 - 矢印ボタン
メニュー項目の移動に使用します。

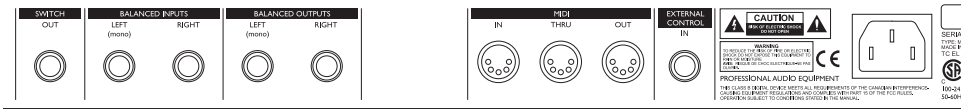
31 - ADJUST ホイール／ ENTER ボタン
ADJUST は調節という意味で、このホイールで選択したパラメータの値を調節します。ホイールを押すと、エンター・ボタンとして機能します。

32 - RECALL ボタン
プリセットの呼び出し操作を行います。RECALL ボタンを一度押した後に ADJUST ホイールでプリセットを選択した後に、ホイールまたは RECALL ボタンを押すと、指定したプリセットが呼び出されます。

33 - STORE ボタン
プリセットの保存操作を行います。STORE ボタンを一度押した後、ADJUST ホイールで保存先を選択し、ホイールを 2 度押すと、指定したプリセットを保存します（ADJUST ホイールを押す操作は「エンター」として機能します）。

プリセットを保存する前に、プリセットの名称を指定／変更できます。矢印ボタンで文字の位置を選択し、ADJUST ホイールで文字を選択します。入力が完了した時点で、ADJUST ホイールを二度押すと、プリセットが保存されます。

リアパネル



SWITCH OUT リレー ジャック

バランス 1/4" アナログ 入力

バランス 1/4" アナログ 出力

MIDI In / Out /Thru

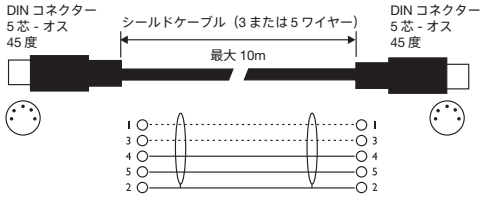
外部 コントロール

電源入力 100 ～ 240V

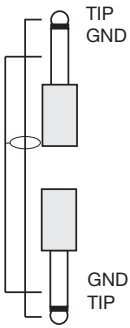
バランスと標準オーディオ・ケーブルについて

G-Major 2 のアナログ入出力ジャックはバランス式の 1/4 インチ・ジャックです。バランス式の機器を最適に接続するには、バランス・ケーブルを使用してください。とはいえ大半のギター装置はバランス式でないため、通常は下に示すモノラル－モノラルの標準ケーブルを使っても問題ありません。

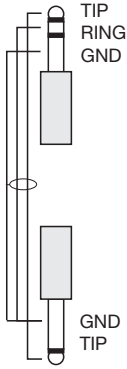
MIDI ケーブル



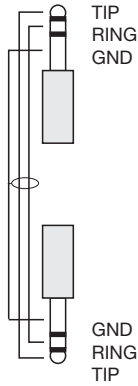
ジャック・ケーブル モノラル－モノラル



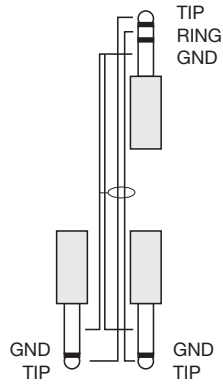
ジャック・ケーブル ステレオ－モノラル

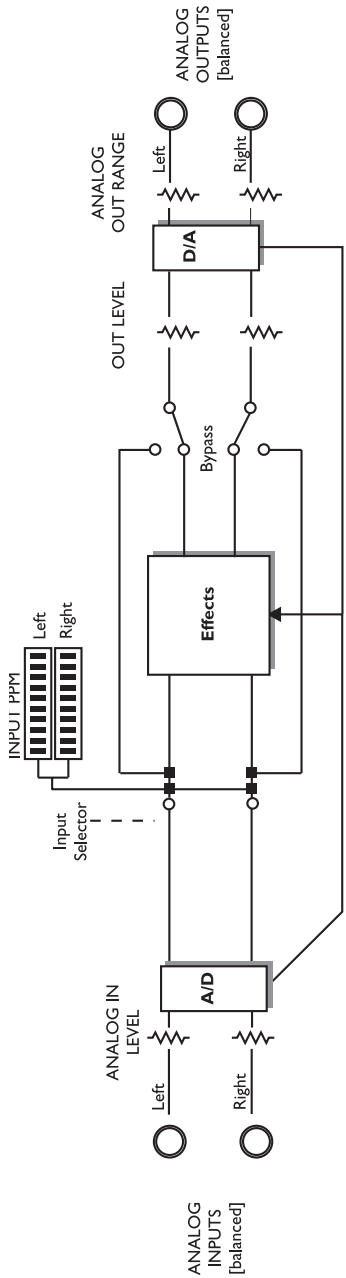


リレー・ジャック・ケーブル ステレオ・ジャック・タイプ



リレー・ジャック・ケーブル Y スプリッター・タイプ

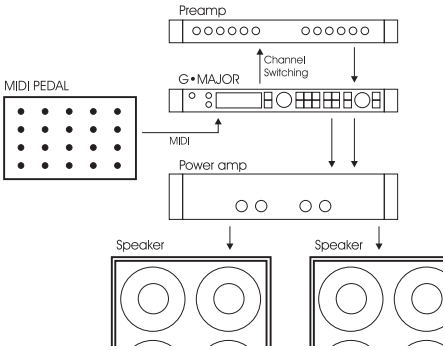



ANALOG OUTPUTS [balanced]
Left
Right
ANALOG OUT RANGE
D/A
OUT LEVEL
Bypass
Effects
INPUT PPM
Left
Right
Input Selector
ANALOG IN LEVEL
A/D
Left
Right
ANALOG INPUTS [balanced]

基本セットアップ

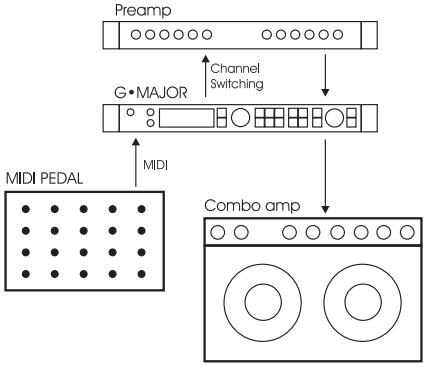
G-MAJOR 2 の接続とセットアップ

ギタリストのセットアップは、多様に渡ります。このセクションでは、一般的なセットアップをいくつかご紹介します。サウンド全体が G-Major 2 を通過する、直列の接続方法をお勧めいたします。この設定では、G-Major 2 に搭載されているエフェクト全てのメリットをフルに活用できます。



プリアンプとパワー・アンプを使用した直列のセットアップ

- プリアンプの出力を G-Major 2 の入力に接続します。
- G-Major 2 の出力をパワー・アンプの入力に接続します。
- G-Major 2 からプリアンプのチャンネルをスイッチングするには、G-Major 2 の SWITCH OUT 端子をプリアンプのチャンネル・スイッチ端子に接続します。MIDI コントロール対応のプリアンプの場合は、この接続を行なう必要はありません。

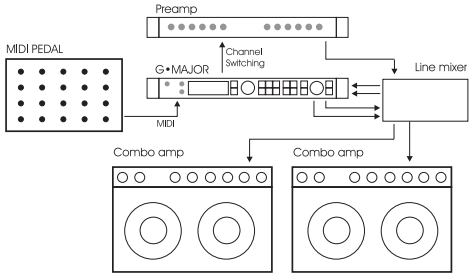


プリアンプとコンボ・アンプを使用した直列のセットアップ

- プリアンプの出力を G-Major 2 の入力に接続します。
- G-Major 2 の出力を、コンボ・アンプの通常の入力またはループ・リターン入力に接続します *。
- G-Major 2 からプリアンプのチャンネルをスイッチングするには、G-Major 2 の SWITCH OUT 端子をプリアンプのチャンネル・スイッチ端子に接続します。MIDI コントロール対応のプリアンプの場合は、この接続を行なう必要はありません。

* コンボ・アンプのエフェクト・リターンを使用したセットアップはほとんどの場合において上記「プリアンプとパワー・アンプを使用した直列のセットアップ」に近い状態となります。コンボ・アンプの通常の入力を使用すると、コンボ・アンプ側のトーン・コントロールなどを使用できるダブル・プリアンプのセットアップとなります。一般的に、ダブル・プリアンプのセットアップは、エフェクト・リターンを使用する場合に比べてノイズ量が増えますが、Vox AC 30 や Fender Bassman 等との組み合わせで近年ポピュラーになりつつある接続方法です。

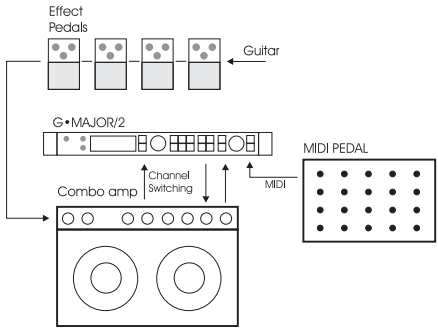
G-Major 2 の接続とセットアップ



ライン・ミキサーを使用した並列のセットアップ

- プリアンプの出力をライン・ミキサーの入力に接続します。
- G-Major 2 からプリアンプのチャンネルをスイッチングするには、G-Major 2 の SWITCH OUT 端子をプリアンプのチャンネル・スイッチ端子に接続します。MIDI コントロール対応のプリアンプの場合は、この接続を行なう必要はありません。
- ライン・ミキサーのループ・センドを G-Major 2 の入力に、そして G-Major 2 の出力をライン・ミキサーのループ・リターンに接続します。
- ライン・ミキサーのメイン出力をアンプに接続します。

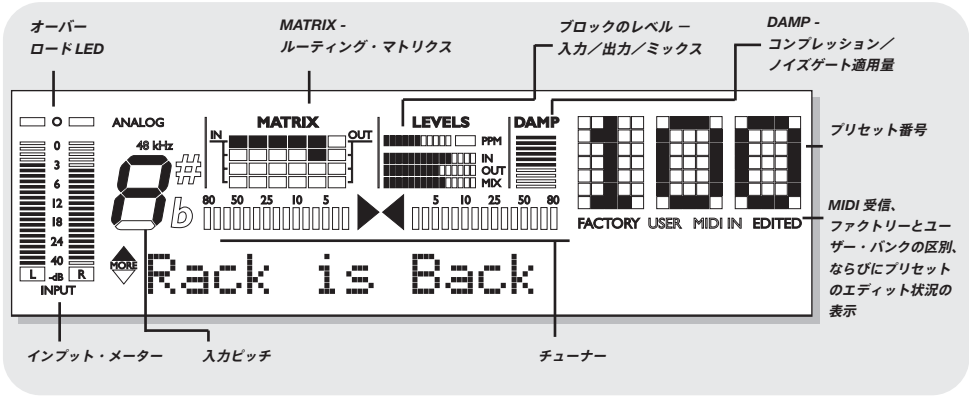
左の図ではコンボ・アンプが描かれていますが、代わりにパワー・アンプを使用することも可能です。また、図のプリアンプの代わりにコンボ・アンプのプリアンプ・セクションを使用することも可能です。



通常のエフェクト・ペダル、G-MAJOR 2、ならびに MIDI ペダルを組み合わせたセットアップ

- コンボ・アンプのエフェクト・ループ・センドを G-Major 2 の入力に接続します。
- G-Major 2 の出力をエフェクト・ループ入力に接続します。
- ギターを最初のペダルの入力に、最後のペダルの出力をコンボの入力に、通常通り接続します。
- プリアンプやコンボ・アンプのチャンネル・スイッチングを含む G-Major 2 のプリセット切り替えを行なうには、MIDI ペダルを G-Major 2 に接続し、リレー・スイッチング機能を使用します。

ディスプレイ



INPUT - インプット・メーター
入力レベルを示すピーク・メーターです。メーターのレンジは、0、-3、-6、-12、-18、-24、-40 dB です。

入力レベルの設定方法

- プリアンプ等 G-Major 2 に音を供給する機器側で、最もダイナミックな内容をもつ最大レベルのサウンドを選択します。通常はクリーントーンとなります。
- G-Major 2 の入力レベルを調整して、-3 dB の LED が頻繁に点滅し、かつ -0 dB の LED が絶対的な最高レベルでのみ点滅するようにします。

インプット・オーバーロード LED
この LED は、過大入力レベルによる入力段のオーバーロードか、DSP 内部処理のゲイン増幅等によるオーバーフローを示します。G-Major 2 の直前の機器の出力を絞るか、IN LEVEL ノブで G-Major 2 の入力ゲインを落とします。

チューナー
G-Major 2 はチューナーを内蔵しています。チューナーは常に作動します。チューニングが合っているときは両方の矢印が点灯します。

MATRIX - ルーティング・マトリクス
G-Major 2 には、シリアル／シリアル 2 ／セミ・パラレル／パラレルのエフェクト・ルーティング（内部接続方法）が用意されています。この表示は、エフェクト・ブロックのルーティング方法を図で示します。

Serial - シリアル

Serial 2 - シリアル 2

Semi Parallel -
セミ・パラレル

Parallel -
パラレル

LEVELS IN/OUT/MIX -
レベル・セクション、イン／アウト／ミックス
エディット中のブロックのみに関連した表示を行ないます。

PPM - ピーク・プログラム・メーター
エディット中のブロックのピーク・レベルを示します。

IN メーター
エディット中のブロックの入力レベルを示します。

OUT メーター
エディット中のブロックの出力レベルを示します。

MIX メーター
エディット中のブロックのミックス・レベルを示します。

DAMP - ダンプ（コンプレッション／ノイズゲート適用量）
ノイズゲートとコンプレッサーが共に使用状態にあるとき、ノイズゲート作動時にはノイズのカット量を、コンプレッサー作動時にはコンプレッションの量を示します。

プリセット番号表示
プリセット番号を表示します。数字が点灯している場合には、現在リコールされているプリセット番号を示します。ADJUST ホイールで次に呼び出したいプリセット番号の選択（プレビュー）中には数字が点滅し、RECALL ボタンを押して操作を確定すると点滅が点灯へと変わります。

EDITED - エディット中
最後に呼び出されたプリセットの内容が変更され、その設定がまだ保存されていない状態にある時に点灯します。

FACTORY/USER - ファクトリー／ユーザー
最後に呼び出されたプリセットのバンク（ファクトリーまたはユーザー）を表示します。

プリセットの種類

ユーザー・プリセット（RAM）
設定を変更可能で、好きなユーザー保存位置に保存することができます。ユーザー・バンクには最大 100 種類のユーザー・プリセットが保存できます。

ファクトリー・プリセット（ROM）
G-Major 2 には 100 種類のファクトリー・プリセットが用意されています。ファクトリー・プリセットに変更を加えた設定は好きなユーザー保存領域に保存することができます。ファクトリー領域は読み込み専用で、設定の保存先としては選択できません。

RECALL - プリセットのリコール（呼び出し）

「プリセットの呼び出し」とは、G-Major 2 の設定を、既存のプリセットの内容に変更することを指します。

- RECALL ボタンを押し、RECALL メニューに入ります。
- ADJUST ホイールでプリセットを選びます。プリセット番号が点滅している状態は、これから呼び出すプリセット番号の選択途中であることを示し、点滅状態のプリセット番号の設定はまだ本体に反映されていません。
- ENTER または RECALL ボタンを押すと、本体の設定がプリセット内容に切り替わります。

操作を中断して元の状態に戻るには、プリセット番号の点滅中に、他のいずれかのボタンを押します。

プリセット選択中の状態とルーティングについて
現在使用しているルーティングとは異なる設定のプリセットを選ぶと、ENTER を押すまでの間、ルーティング・マトリクス LED が点滅します。

プリセットのエディット

- エディットしたいエフェクト・ブロックのボタンをダブルクリックします。
- 矢印ボタンでパラメータを選択し、ADJUST ホイールで値を変更します。
- プリセットの保存方法については次のセクションをご参照ください。

STORE - プリセットのストア（保存）

プリセットを、同じ名前で保存する場合の手順

- STORE ボタンを押します。
  ファクトリー・プリセットに変更を加えたものを保存する場合は、自動的にユーザー・プリセット領域の一番始めの空領域が表示されます。そのままそこに設定を保存するか、ADJUST ホイールで別の保存先を選択できます。ユーザー・プリセットに変更を加えたものを保存する場合は、自動的に元のユーザー・プリセット領域が表示されます。そのまま元の設定を上書きするか、ADJUST ホイールで別の保存先を選択できます。
- ENTER を二度押すとプリセットが保存されます。

プリセット名を変更して保存する場合の手順

- STORE ボタンを押します。
  ファクトリー・プリセットに変更を加えたものを保存する場合は、自動的にユーザー・プリセット領域の一番始めの空領域が表示されます。そのままそこに設定を保存するか、ADJUST ホイールで別の保存先を選択できます。ENTER を一度押します。
- プリセット名を変更するには、矢印ボタンでカーソルを移動し、ADJUST ホイールで文字を選択します。
- プリセット名の指定が完了したら、ENTER を二度押します。プリセットが新しい名前で保存されます。

MIDI を経由したプリセットのバックアップ

MIDI 経由で、シーケンサーや別の G-Major 2 に、ユーザー・プリセットの設定内容全体をバックアップすることができます。ユーザー・プリセットの設定内容を送信することを「バルク・ダンプ」と呼びます。MIDI バルクダンプの手順は以下の通りです。

- G-Major 2 の MIDI Out を、別の G-Major 2 かシーケンサー側（DAW 側の MIDI インターフェイスかもしれません）の MIDI In に接続します。
- MIDI ボタンを押し、矢印ボタンで Bulk Dump を選択します。
- 別の G-Major 2 に接続しているときは、ENTER を押すだけで全ユーザー・プリセットの設定内容が接続先の G-Major 2 にコピーされます。
- シーケンサーにバルク・ダンプを行う場合は、シーケンサーを OMNI モード（全チャンネル）で記録状態にし、G-Major 2 の ENTER を押します。

G-Major 2 は常時 MIDI バルク・ダンプを受信できます。

MIDI バルク・ダンプを受信するには、ダンプ情報の送信機器の MIDI Out を受信側の G-Major 2 の MIDI In に接続します。シーケンサーから G-Major 2 にダンプするときは、バルク情報をもつシーケンサーをそのまま演奏します。G-Major 2 からダンプする方法については、上の説明をご覧ください。

GLOBAL - グローバル・メニュー

概要

Global メニューは、インプット・タイプ／クロック／入出力レンジなど、本体の基本的な動作に関わる重要なパラメータが多く含まれています。G-Major 2 のポテンシャルをフルに発揮させるには、このセクションで正しい設定を行なうことが必須となります。

このメニューのパラメータは本体全体の動作に関連するもので、設定内容はプリセットの一部としては保存されません。

基本操作

- GLOBAL ボタンを押します。
- 矢印ボタンでパラメータを選択します。
- ADJUST ホイールで値を選択します。

Kill Dry - キルドライ

設定レンジ： On ／ Off

G-Major2 の全てのエフェクトと機能をフルに活用するためにも、システムに組み込む際にはシリアル・ループで使用することを推奨します。しかしながら、G-Major 2 をパラレルのセットアップ（またはパラレル・ループ）で使用する場合には、キルドライ機能は重宝する機能となるでしょう。

Kill Dry をオンにすると、原音が G-Major 2 から出力されなくなります。

<u>パラレル・セットアップにおける Kill Dry 機能の留意点</u>

まず、

- ルーティングは Parallel（パラレル）で使用することをお勧めいたします。
- Kill Dry パラメータをオンにすると、アウトプットからクリーンの信号が出力されなくなり、全エフェクト・ブロックの Mix パラメータが「Wet」に変わります。

別の留意点として、パラレル・ループにおける信号の流れはミキサー内のルーティングに類似していることがあげられます。信号は分割され、片方はそのまま出力に、もう片方はエフェクト・プロセッサーを通過します。すなわち、この「もう片方」の信号は G-Major 2 で処理され、後に原音と混ざることとなる訳です。そのため、パラレル・セットアップでは、全てのエフェクトの利点を享受できなくなります。トレモロやパンナーなどのレベルを扱うエフェクトは原音と混ぜてしまうと効果が損なわれますし、コーラス／フランジャー／フェーザー／ビブラート、そして PITCH ブロックなども影響を受けてしまいます。

Pedal Type - ペダル・タイプ

外部コントロール用の 1/4"ジャックに接続したペダルのタイプを指定します。エキスプレッション・ペダル、そしてモメンタリーとオルタネーティング・スイッチの 3 つの種類から選べます。

Momentary（モメンタリー - アンラッチ）タイプのペダルは、キーボードで使われるホールド・ペダルのような動作で、ペダルを踏んでいる間のみ TIP と GND が接続されるタイプのペダルです。

Alternate（オルターネイティング - ラッチ）タイプのペダルは、一度押すと「接続されている」状態が保たれ、もう一度押すと OFF に戻るタイプのペダルです。

エキスプレッション・ペダルを使用する際には、Exp/Vol（エキスプレッション／ボリューム）を選択します。

Pedal Calibrate - ペダル・キャリブレーション

エキスプレッション・ペダルは、各社より異なる抵抗値と曲線のものが発売されています。G-Major 2 をエキスプレッション・ペダルの操作に正しく応答させるには、次の手順でペダルのキャリブレーションを行なってからご使用ください。

1 ペダルを接続し、ペダルの種類を設定します（上記 Pedal Type パラメータ参照）
2 Pedal Calibrate を選択し、ENTER を押します。
3 ペダルを最大の位置（つま先側）に動かしてから、ENTER を押します。
4 ペダルを最小の位置（かかと側）に動かしてから、ENTER を押します。

これで、キャリブレーションは完了です。

使用するペダルの種類によっては、3 と 4 番を数回繰り返す様に指示されるかもしれません。

GLOBAL - グローバル・メニュー

MOD Master - MOD マスター
設定レンジ： Preset ／ Mod
モディファイアーという言葉をご存知ない方は、本マニュアルの「モディファイアー」のセクションをご参照ください。G-Major 2 のパラメータは、MIDI エキスプレッション・ペダルなどの外部コントローラーから操作できます。たとえばモディファイアーがプリセットの出力レベルをコントロールするように設定されている場合、プリセットの変更時に G-Major 2 がエキスプレッション・ペダルの位置に対してどう反応するかをこの MOD Master パラメータで決めることができます。適正な設定は、モディファイアーがどのパラメータをコントロールするかによって異なります。

Preset - プリセット（プリセットの設定値を適用）
G-Major 2 は外部コントローラーの位置を無視し、リコールしたプリセットに保存されているモディファイアーの設定値を適用します。

Mod - モディファイアー（モディファイアーの設定値を適用）
G-Major 2 はプリセット変更がなされるたびに外部コントローラーの位置をチェックし、その位置に応じたパラメータ設定に変更します。そのため、モディファイアーにおける関連パラメータの値は無視されます。

「Preset」の設定を選んでいる状態でエキスプレッション・ペダルがレベル・パラメータをコントロールする設定になっている場合、プリセット変更後にペダルを動かした瞬間に、パラメータはペダルの位置に相当する値へとジャンプします。突然の大幅なレベル変動が起こることがありますので、ご注意ください。

Tuner Ref. - チューナー基準ピッチ
設定レンジ： 420 ～ 460 Hz
内蔵チューナーの基準ピッチを指定します。標準の設定は 440 Hz です。

Tuner Mode - チューナー・モード
チューニングは 2 種類の精度で行えます。

Fine Tune
最高精度。ギターをより正確にチューニングするときに選択します。

Coarse
精度はやや劣りるものの、より素早くチューニングが行え、ライブ用途などに適しています。

Tuner Range - チューナー・レンジ
チューナーのレンジを設定します。使用する楽器に合わせて Guitar（ギター）／ Bass（ベース）／ 7-string Guitar（7 弦ギター）のいずれかを選択します。この設定が使用楽器に合っていないとチューナーの精度が損なわれることがありますのでご注意ください。

Tap Master - タップ・マスター
Preset　プリセット設定値のテンポを適用します。
Tap　グローバル・タップ・テンポを適用します。

Tap Unit - タップ単位
設定レンジ： BPM ／ ms
テンポ表示の単位を指定します。

FX Mute - エフェクト・ミュート
設定レンジ： Hard ／ Soft
プリセット変更時の、リバーブ及びディレイの余韻の扱いを指定します。

Hard　プリセット変更時に、エフェクトがミュートされます。
Soft　プリセット変更時に、エフェクトの余韻が鳴り続けます。

View Angle - ヴュー・アングル
液晶ディスプレイのバックライトを見やすい様に調節します。

Input Range - 入力レンジ
設定レンジ： Pro ／ Consumer
入力のセンシティビティを切り替えます。ディフォルトの設定は「Pro」で、ほとんどのプリアンプとの組み合わせに適切な設定です。

Output Range - 出力レンジ
レンジ： 2dBu ／ 8dBu ／ 14dBu ／ 20dBu
アナログ出力段の最大ゲイン・レンジを設定します。

MIDI メニュー

MIDI メニューからは、G-Major2 の全体的な動作に関連する MIDI 関連のパラメータを設定できます。

MIDI Channel - MIDI チャンネル
設定レンジ： Off ／ 1 ～ 16 ／ Omni
G-Major 2 の MIDI 受信チャンネルを設定します。OMNI を選択すると、全チャンネルの入力に反応します。

MIDI Program Change - MIDI プログラム・チェンジ
設定レンジ： On ／ Off
受信した MIDI プログラム・チェンジ情報に応答するべきかどうかを指定します。

Bulk Dump - バルク・ダンプ
ENTER を押すと、全ユーザー・プリセット内容の MIDI バルク・ダンプを行います。G-Major 2 は、常時 MIDI バルク・ダンプの受信を行えます。詳しくは、「MIDI を経由したプリセットのバックアップ」セクションをご参照ください。システム・エクスクルーシブ情報を使って、単体プリセットと設定全体を保存できます。

バルク・ダンプを使用する場合、必ず事前に GLOBAL メニューの Send Tuner パラメータをオフに設定してください。

Program Bank - プログラム・バンク
MIDI のプログラム・チェンジ情報を受信した際に選択されるバンクを指定します。External（エキスターナル）、Factory（ファクトリー）、User（ユーザー）、Custom（カスタム）が選択できます。

External を選択した場合、 CC #0=0 でファクトリー・バンクが、CC #0=1 でユーザー・バンクが選択されます。

SysEx ID - システム・エクスクルーシブ ID
MIDI システム・エクスクルーシブ ID を指定します。

MIDI Clock - MIDI クロック
設定レンジ： On ／ Off
グローバル・タップ・テンポを MIDI シーケンサー等からの外部 MIDI クロックに同期させることができます。ここで、MIDI クロックに反応するか否かを指定します。ディレイを楽曲のテンポに同期させる、等の用途に使用できます。

MIDI マッピング

MIDI マッピングとは？
G-Major 2 では、MIDI プログラム・チェンジを受信した際に、それぞれ異なるプリセット番号を呼び出す様に設定できます。受信した MIDI プログラム・チェンジ番号と、実際に呼び出されるプリセット番号の関連づけのことを、「マッピング」と言います。

この機能は、複数の MIDI 対応機器を併用する際に効果的です。例えば、G-Major 2 と MIDI プリアンプを同時使用している場合、MIDI フットコントローラーからプログラム・チェンジ 1 番を選択した場合に、プリアンプ側ではプログラム 1 番、G-Major 2 側ではプリセット番号 10 番を呼び出したいとします。この様な場合、MIDI マッピング機能を使用して、プログラム・チェンジ 1 番の MIDI 情報を受信した場合に実際に呼び出されるプリセット番号を指定できます。

基本的な操作は、「受信プログラム・チェンジ番号 XX 番を」、「プリセット番号 XX 番にマッピングする」という手順で行います。

- MIDI を押します。
- Prg Bank パラメータを選択し、ADJUST ホイールで Custom を選びます。
- ENTER を押します。
- ディスプレイには、次のように表示されます。

- この数字は、マッピングの「元」となる、MIDI フットコントローラー側のプログラム番号を指定します。1 ～ 128 の番号を選択できます。
- 下矢印ボタンで「Map To...」（マッピング先）を選択します。

- ADJUST ホイールで、マッピング先のプリセット番号を指定します。この例では、プログラム・チェンジ 1 番はファクトリー・プリセット 7 番にマッピングされます。
- マッピングしたい全てのプログラム・チェンジ番号を、同様に設定します。

「Fact」はファクトリー・プリセット、「User」はユーザー・プリセットを示します。「None」を選択した場合、該当するプログラム・チェンジ番号を受信した際に G-Major 2 側ではプリセットの変更を行いません。

MIDI マップのリセット
MIDI マッピングの設定を全てリセットするには、「Reset Map <Enter>」を選択し、ENTER を押します。

はじめに
G-Major 2 を使い始めてプリセットをいくつか作成したら、MIDI フットコントローラーやエキスプレッション・ペダルなどでコントロールしたいと思われることでしょう。

ラック・エフェクトの世界に足を踏み入れたばかりの方は、最初このセクションの内容に戸惑われるかもしれません。しかし、基本的な構造さえ把握できれば操作は極めてシンプルで、G-Major 2 を外部コントロールする利点はきっとなくてはならないものとなるはずです。G-Major 2 では、後述の学習機能により、各種パラメータに関する外部コントロールの設定がきわめて簡単に行えます。

MOD メニュー

MOD は Modifier（モディファイアー）の略です。このセクションでは、MOD メニューの設定方法とパラメータを解説します。

Mod 1 ～ 4
モディファイアーは、エキスプレッション・ペダル等の外部コントロール装置と、ディレイ・タイムやビブラート・スピード等のパラメータをつなぐインタフェースであると考えることができます。モディファイアーの操作については 20 ページをご参照ください。

Bypass All - オール・バイパス
外部コントローラーから G-Major 2 全体のバイパス機能をオン／オフします。

Tuner Mute - チューナー・ミュート
チューニング時に G-Major 2 の出力をミュートします。

Global In Level - グローバル・イン・レベル *
外部コントローラーから全体的な入力レベルを調節します。

Preset Out Level - プリセット・アウト・レベル *
外部コントローラーからプリセット出力レベルを調節します。

PresetBoost - プリセット・ブースト
外部コントローラーからの操作で、Levels All メニューで設定したプリセット出力レベルを一時的に 0dB までブーストする機能です。これは、あらゆるプリセットにおいて使用可能で、フィルの演奏時など同一のプリセット内で一時的にレベルをブーストしたい時に便利です。MIDI CC の値が 64 以上になるとレベルがブーストされ、MIDI CC の値が 64 以下になるとプリセット出力レベルに戻ります。

新しいプリセットを呼び出すと、Preset Boost は一旦リセットされます（すなわち、64 以下の数値が送られます）ので、MIDI In/Out が両方 MIDI フットコントローラーに接続されている場合は、MIDI フットコントローラー側での表示も更新されます。この機能を活用する場合の注意点として、プリセットの出力レベルが 0 dB に設定されていると、ブーストされるレベルの幅が存在しないために、効果があらわれない点が挙げられます。

PresetBoost 機能の設定方法の詳細については、27 ページの例をご参照ください。

Global Out Level - グローバル・アウト・レベル *
外部コントローラーから Global Out レベルを調節します。

Relay 1 & 2 - リレー 1 & 2
外部コントローラーから Relay 1 と 2 をコントロールします。

Comp On/Off - コンプレッサー ON/OFF
外部コントローラーからコンプレッサーをオン／オフします。

Filter On/Off - フィルター ON/OFF
外部コントローラーからフィルター・ブロックをオン／オフします。

Pitch On/Off - ピッチ ON/OFF
外部コントローラーからピッチ・ブロックをオン／オフします。

Cho/Flg On/Off - コーラス／フランジャー ON/OFF
外部コントローラーからコーラス／フランジャー・ブロックをオン／オフします。

Delay On/Off - ディレイ ON/OFF
外部コントローラーからディレイ・ブロックをオン／オフします。

Reverb On/Off - リバーブ ON/OFF
外部コントローラーからリバーブ・ブロックをオン／オフします。

Noise Gate On/Off - ノイズゲート ON/OFF
外部コントローラーからノイズゲート・ブロックをオン／オフします。

EQ On/Off
外部コントローラーから EQ ブロックをオン／オフします。

* 使用するエキスプレッション・ペダルの種類によって、様々な効果を得るのには異なる設定が必要となります。そのため、G-Major 2 では、MOD メニューでレベル関連のパラメータに個別にレスポンス・カーブ（反応の曲線）を指定できます。

レスポンス・カーブを設定するには、パラメータ（例：

Preset Out Level）を選択し、ENTER を押します。次に、最小／中間／最大値を指定します。モディファイアーのレスポンス・カーブの設定方法に関する詳細は、次ページをご参照ください。

外部コントロール

外部コントローラーをパラメータに割り当てる手順を順番に見てみましょう。

- MOD ボタンを押し、矢印ボタンでパラメータを選択します。
- パラメータ毎に、コントロールの方法が設定できます。ADJUST ホイールで次のいずれかを選択します。
  OFF ／ Learn（学習）／ Pedal（ペダル）／ CC 1 ～ 128

Off

モディファイアーの外部コントロールは行われません。

Learn - 学習

- ENTER を押すとディスプレイに「>>>Learning<<<」（「学習中」）と点滅し、学習モードであることを示します。
- ここで、モディファイアーをコントロールする外部コントローラーを G-Major 2 に学習させます。CC を送出する（MIDI フットコントローラーの CC ボタンを押す）か、エキスプレッション・ペダルまたはスイッチを動かします。
- 「>>>Learning<<<」の点滅が止まれば作業は終了です。

Pedal

Pedal を選択すると、リア・パネルの EXTERNAL CONTROL 端子につないだペダルからのみモディファイアーのコントロールを行ないます。

CC 0-127

モディファイアーが反応するべき CC 番号を手動で指定します。

エフェクト・ブロックのオン／オフとチューナー・ミュートは MIDI フットコントローラーのスイッチの操作（MIDI CC）で行ない、レベル／スピード／ピッチ関連のパラメータはエキスプレッション・ペダルで行なうのが一番自然な選択肢といえるでしょう。

モディファイアーによる外部コントロール

外部コントローラーを特定のパラメータに割り当てるには、2 段階の操作が必要です。

ステップ 1 ：

モディファイアーを外部コントローラーに割り当てる

前ページで解説した手順で設定を行ないます。

ステップ 2 ：

パラメータをモディファイアーに割り当てる

- MOD メニューにまだ入っていないときは MOD ボタンを押し、ディスプレイ部に MOD 1 ～ 4 のいずれかを表示させます。ENTER を押します。
- コントロールしたいパラメータを矢印ボタンで選択します。このリストには、プリセットで使用されているエフェクト・ブロックのみが表示されます。ディスプレイ部の左側にはパラメータ名が、右側には割り当てられているモディファイアーが表示されます。
- ADJUST ホイールで、4 つ用意されているモディファイアーのいずれかにパラメータを割り当てます。ENTER を押すと、モディファイアーのレスポンス・カーブを指定する画面に切り替わります。

モディファイアーのレスポンス・カーブ（反応曲線）の設定

モディファイアーのレスポンス・カーブは、エキスプレッション・ペダル等の動きに対するモディファイアーの反応の曲線を決定します。設定するパラメータは 3 つです。

MinOut - ミニマム・アウト

エキスプレッション・ペダルまたはモディファイアー入力が最小位置にあるときのモディファイアーの出力レベルを指定します。

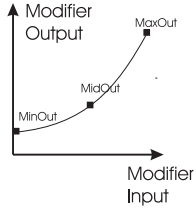
MidOut - ミッド・アウト

エキスプレッション・ペダルまたはモディファイアー入力が中央位置にあるときのモディファイアーの出力レベルを指定します。

MaxOut - マックス・アウト

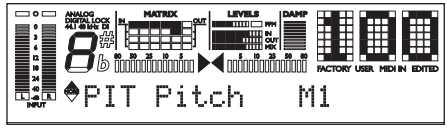
エキスプレッション・ペダルまたはモディファイアー入力が最大位置にあるときのモディファイアーの出力レベルを指定します。

例



エキスプレッション・ペダルをワーミー・ペダルとして割り当てる

この例では、先に説明した学習機能などを使って、エキスプレッション・ペダルをモディファイアー 1 に事前に割り当てておく必要があります。



アルゴリズム　パラメータ　　割り当てモディファイアー

例

- エキスプレッション・ペダルを、G-Major リアパネルの EXTERNAL CONTROL 端子、または MIDI ペダルのエキスプレッション・ペダル入力端子に接続します。
- エキスプレッション・ペダルをまだキャリブレーションしていない場合は、前述「ペダル・キャリブレーション」をご参照ください。
- PITCH ブロックのエフェクト・タイプを Whammy に設定します。
- MOD ボタンを押し、MOD メニューに入ります。
- ENTER を押します。
- 矢印ボタンで PIT Pitch を選択し、ADJUST ホイールで MOD 1 を選択します。

NOTE

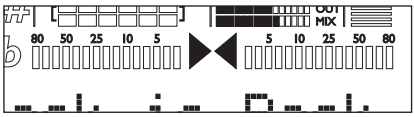
接続しているエキスプレッション・ペダルのタイプに応じてキャリブレーションを行う必要があります。操作は GLOBAL メニューで行います。詳細は 15 ページをご参照ください。

割り当て可能なパラメータの種類

モディファイアーに割り当て可能なパラメータは、MOD メニューの最後に表示されています。パラメーター覧の内容は、各種エフェクト・ブロックにおいて動作しているアルゴリズムの種類によって異なります。

チューナー

チューナーは常に作動し、LCD ディスプレイに値が表示されます。



チューナーのパラメータ操作は、GLOBAL メニューで行ないます。

- GLOBAL ボタンを押します。
- 矢印ボタンでパラメータを選択します。
- ADJUST ホイールで値を選択します。

Tuner Mode - チューナー・モード
チューニングは 2 種類の精度で行えます。

Fine Tune
最高精度。ギターをより正確にチューニングするときに選択します。

Coarse
精度はやや劣りるものの、より素早くチューニングが行え、ライブ用途などに適しています。

Tuner Range - チューナー・レンジ
チューナーのレンジを設定します。使用する楽器に合わせて Bass（ベース）／ 7-string（7 弦ギター）／ Guitar（6 弦ギター）のいずれかを選択します。この設定が使用楽器に合っていないとチューナーの精度が損なわれることがありますのでご注意ください。

Tuner Frequency - チューナー 周波数
設定レンジ： 420 ～ 460 Hz
チューナーの基準ピッチを指定します。標準的な基準ピッチは 440 Hz で、クラシックでは通常 438 ～ 442 Hz が使用されます。

Tuner Mute - チューナー・ミュート
ギターをチューニングする際、G-Major 2 の出力をミュートすると都合の良い場合が多々あります。ミュート機能をオン／オフするには、MIDI CC を送信する MIDI ペダル、モメンタリー・スイッチまたはオルタネーティング・スイッチ、あるいはエキスプレッション・ペダルをセットアップします。これらのセットアップは MOD メニューで行います。

例
MIDI ペダルからの MIDI コントロールチェンジ信号で G-Major 2 のミュートを行なうには、次の設定を行います。

- MIDI ペダルを G-Major 2 に接続します。
- MOD ボタンを押し、矢印ボタンで Tuner Mute を選択します。
- ADJUST ホイールで Learn を選択して ENTER を押します。「>>>Learning<<<」と点滅します。
- チューナー・ミュートに割り当てたい MIDI フットコントローラーのスイッチを踏みます。

これで完了です。今後、このスイッチを踏む度に、無音状態でチューニングが行えます。

LEVELS ALL & RELAY 1+2 - レベル（全体）& リレー 1+2

基本操作

- LEVELS/ROUTING ボタンを押します。
- 矢印ボタンでパラメータを選択します。
- ADJUST ホイールで値を選択します。

Preset Out Level - プリセット・アウト・レベル

設定レンジ： Off（-100 dB）～ 0 dB

選択されているプリセットの出力レベルを設定します。プリセット毎にレベルを設定できます。リズムとリード用のプリセットで異なるレベルを設定したり、逆にプリセット間の音量的な統一感を保つことができます。

プリセット・アウト・レベルの設定は、プリセットに保存されます。

ファクトリー・プリセットはこの値が全て-6dB に設定されていますので、後に作成するプリセットでブーストを加えることが可能です。ソロ用のレベルの設定の仕方は、後述の「ハウツー集」セクションをご参照ください。

Global In Level - グローバル・イン・レベル

設定レンジ： Off（-100 dB）～ 0 dB

G-Major 2 の全体的なインプット・レベルを設定します。

パラメータ名からもわかるように、この設定は本体全体に適用され、プリセットには保存されません。

エキスプレッション・ペダルから全体のボリュームをコントロールしたい場合は、ペダルをこのパラメータに割り当てることにより、ボリュームを落としてもディレイやリバーブなど余韻の残るエフェクトの減衰音は鳴り続く自然な効果が得られます。

Global Out Level - グローバル・アウト・レベル

設定レンジ： OFF（-100dB）～ 0dB

G-Major 2 の全体的なアウトプット・レベルを設定します。

パラメータ名からもわかるように、この設定は本体全体に適用され、プリセットには保存されません。

このパラメータを全体のボリューム・コントロールとして使用すると、ディレイやリバーブなど余韻の残るエフェクトの音量を含めた全体の音量コントロールとして機能します。

Kill Dry - キルドライ

設定レンジ： On ／ Off

G-Major2 の全てのエフェクトと機能をフルに活用するためにも、システムに組み込む際にはシリアル・ループで使用することを推奨します。しかしながら、G-Major 2 をパラレルのセットアップ（またはパラレル・ループ）で使用する場合には、キルドライ機能は重宝する機能となるでしょう。

Kill Dry をオンにすると、原音が G-Major 2 から出力されなくなります。

<u>パラレル・セットアップにおける Kill Dry 機能の留意点</u>

まず、

- ルーティングは Parallel（パラレル）で使用することをお勧めいたします。
- Kill Dry パラメータをオンにすると、アウトプットからクリーンの信号が出力されなくなり、全エフェクト・ブロックの Mix パラメータが Wet に変わります。

別の留意点として、パラレル・ループにおける信号の流れはミキサー内でのルーティングに類似していることがあげられます。信号は分割され、片方はそのまま出力に、もう片方はエフェクト・プロセッサーを通過します。すなわち、この「もう片方」の信号は G-Major 2 で処理され、後に原音と混ざることとなる訳です。

そのため、パラレル・セットアップでは、全てのエフェクトの利点を享受できなくなります。トレモロやパンナーなどのレベルを扱うエフェクトは原音と混ぜてしまうと効果が損なわれますし、コーラス／フランジャー／フェーザー／ビブラート、そして PITCH ブロックなども影響を受けてしまいます。

リレー１＆２を使った外部プリアンプのチャンネル・スイッチング

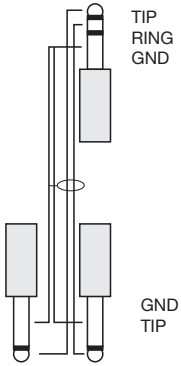
G-Major 2 は 2 系統のスイッチング・リレーを内蔵しており、プリセット切り替え時、または MIDI フットコントローラーからの MIDI CC メッセージでアナログ・プリアンプのチャンネル・スイッチングが行なえます。すなわち、

- プリセットごとにプリアンプのクリーンと歪みのチャンネルのいずれかを割り当てることができます。
- MIDI フットコントローラーからの MIDI CC メッセージでリレー／プリアンプ・チャンネルをスイッチングすることができます。

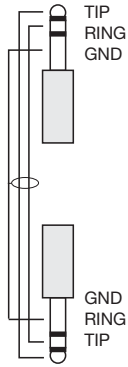
ケーブルは、プリアンプやコンボ・アンプに備わるチャンネル・スイッチング用の端子に応じて、ステレオの 1/4 インチ・ジャックを 2 つのモノ・ジャックに分離する Y 字分岐ケーブル（TIP to TIP および TIP to RING）、またはステレオーステレオ・ケーブルのいずれかを使用します。

- Relay 1 (TIP) をオンにすると、スイッチング用 1/4 インチ・ジャックのチップがスリーブ（GND）にショートされます。オフの状態ではリレーが開きます。
- Relay 2 (RING) をオンにすると、スイッチング用 1/4 インチ・ジャックのチップがスリーブ（GND）にショートされます。オフの状態ではリレーが開きます。

Y 字分岐ケーブル



ステレオーステレオ・ケーブル



NOTE

より複雑なチャンネル・スイッチングの構造を持ったギター・アンプとの組み合わせでお好みのスイッチング構成を得るには、ギター・アンプのメーカーか、専門のギター・テクニシャンにご相談ください。TC エレクトロニック・ウェブサイトのサポート・セクションには、現在市場でポピュラーなアンプに対応したスイッチング配線の回路図が掲載されています。システムのセットアップに疑問をもたれましたら、まずはウェブサイトをご参照いただくことをお勧めいたします。

モディファイアー機能で、MIDI または SWITCH OUT ジャックに接続されたペダルからこのパラメータを操作できます。設定は、MOD メニューで行ないます。

リレーの設定方法

- LEVELS/ROUTING ボタンを押します。
- 矢印ボタンで Relay 1 または Relay 2 をを選択します。
- ADJUST ホイールでリレーの状態を選択します。

例

ここでは、G-Major 2 と 3 チャンネル・コンボ（またはプリアンプ）の組み合わせを想定します。

- はじめに、アンプ側のチャンネル・スイッチング用の端子が 2 つのモノ端子か 1 つのステレオ端子かを確認し、それに従ってケーブルを選択します。
- G-Major 2 リアパネルの SWITCH OUT 端子にステレオ・ジャックを差し込みます。
- コンボ・アンプまたはプリアンプのチャンネル切り替え端子に、端子に合わせてモノ・ジャック 2 つまたはステレオ・ジャック 1 つを差し込みます。
- チャンネル・スイッチングを割り当てるプリセットを G-Major 2 側で呼び出します。
- LEVELS/ROUTING ボタンを押します。
- 矢印ボタンで Relay 1（Rly 1）または Relay 2（Rly 2）を選択し、ADJUST ホイールでリレーの状態を選択します。

この操作によってプリアンプのチャンネルが切り替わります。リレーの状態がクリーン／クランチ／ディストーション・チャンネルのいずれかに割り当てられているかはアンプによって異なるため、ここで具体的にどのチャンネルだということは断言できません。複数のアンプをご使用の場合は、アンプごとに様々な設定を試した上で、有効なセッティングをメモしておくことをお勧めいたします。

- プリセットを保存するには、STORE ボタンを 2 度押します（詳細は「プリセット操作」セクションをご参照ください）。

ROUTING ールーティング・メニュー

G-Major 2 には、Serial（シリアル）／Serial 2（シリアル 2）／Semi-Parallel（セミ・パラレル）／Parallel（パラレル）の 4 種類のルーティングが用意されています。ルーティングの概念は、たとえばコンパクト・エフェクトを複数台使用する際の、各エフェクト機の接続方法とお考えいただければ分かりやすいかもしれません。

ルーティングの設定はプリセットに保存されます。プリセットによってルーティングが変わるのを防止したい場合には、Routing Lock 機能でルーティングを固定できます。

基本操作

- LEVELS/ROUTING ボタンを押します。
- 矢印ボタンでルーティング・タイプを選択します。
- ADJUST ホイールで Serial（シリアル）／Serial 2（シリアル 2）／Semi-Parallel（セミ・パラレル）／Parallel（パラレル）のいずれかを選択します。

Serial - シリアル（直列）

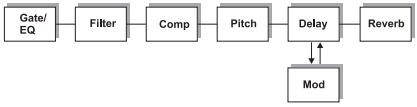
Serial は、通常のコンパクト・エフェクトの配線と同様、7 つのエフェクト・ブロックを順番に直列で接続します。各ブロックは前に置かれたブロックの影響を受け、また次のブロックに影響を与えます。

ロング・ディレイを使用すすると、ディレイの反復成分にリバーブが重なるのが邪魔と感じられるかもしれません。その場合は、セミ・パラレルかパラレル・ルーティングをご使用ください。

Serial 2 - シリアル（直列）2

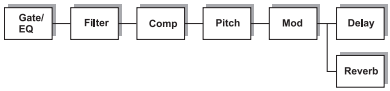
Serial 2 は Serial のバリエーションで、ディレイの反復成分にのみモジュレーションがかかります。

Serial 2 の利点としては、ロング・ディレイを使用する場合に、原音が濁ることなく極端なモジュレーション・エフェクトを施すことが可能となります。



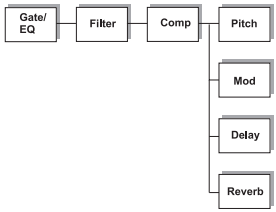
Semi Parallel - セミ・パラレル

Semi Parallel では、最初の 5 つのエフェクト・ブロックが直列に接続されますが、リバーブとディレイは並列に接続されます。そのため、ディレイとリバーブのエフェクトが影響しあうことがありません。これは、たとえば、ディレイの反復がリバーブしたり、その逆が発生しないことを意味します。リバーブとディレイが並列に接続されることで、エフェクトの音像がクリアになる効果が表れることもあります。



Parallel - パラレル（並列）

Parallel では、ノイズゲート、コンプレッサー、トレモロといったエフェクトが直列に接続され、その先のピッチ、コーラス、ディレイ、リバーブが並列接続となります。



Routing Lock - ルーティング・ロック

ルーティングの設定はプリセット単位で保存されます。G-Major 2 は、MIDI のプログラムを変更する度にルーティングの設定を確認します。変更先のプリセットが元のプリセットと異なるルーティングを使用している場合は、ルーティングが変更されます。Routing Lock 機能はこの切り替わりを阻止し、ルーティングを固定します。そのためプリセット変更によって変更されるのは、エフェクト関連のパラメータのみとなります。

LEVELS/ROUTING ボタンを押し、矢印ボタンで Routing Lock パラメータを選択します。

プリセット変更をスムーズにするため、そしてプログラミングを簡単にする意味合いからも、ルーティングは極力一つに固定することをお勧めいたします。設定を固定させるには、好みのルーティングを選択して、Routing Lock をオンにします。

ハウツー集

基本設定

- 10 ～ 11 ページの説明に従って G-Major 2 を接続し、電源を投入します。
- 最大のダイナミクスをもつ最大レベルのサウンドをプリアンプまたはエフェクト・ペダルから探し、ピークがおよそ -3 dB になるようインプット・レベルを設定します。歪んだ音は本質的にコンプレッションされているため、通常はクリーントーンの方が大きいダイナミクスをもちます。
- G-Major 2 の出力の接続先とレベルが一致するよう、出力を設定します。適正な設定値は接続先の機種によって大きく異なりますので、様々な設定をお試しください。

プリセット内で特定のエフェクト・ブロックをバイパスする方法

オフにしたいエフェクト・ブロックのボタンを押すだけです。エフェクト・ブロックをオフにしても、設定が瞬時に失われることはありませんので、後にオンにした際に同じ状態に復帰できます。

プリセットを保存するには STORE ボタンを押し、続いて ENTER を 2 度押します。プリセット保存の詳細は、「プリセットの保存」セクションをご参照ください。オフの状態のエフェクト・ブロックのボタンを再度押すことにより、前の設定内容のままいつでもオンにすることができます。

バイパスしたブロックは音に一切の影響を与えませんので、ノイズや音痩せの原因にはなりません。

特定のプリセットをブーストする方法

G-Major 2 のファクトリー・プリセットはすべて-6 dB で統一されています。プリセット・ブースト機能を使用すると、この設定を一時的に 0 dB に変更し、ソロ時などでレベルをブーストさせることができます。全体のレベルを統一させることと、いざという時のヘッドルームを確保する観点から、ユーザー・プリセットでも同様に 6 dB のヘッドルームを確保することをお勧めいたします。このレベルは、LEVELS メニューの Preset Out Level で設定します。

プリセット・ブースト機能は、フィルやキメなどの場面で一時的にレベルをブーストさせる用途に使用します。次の例では、全てのプリセットが-6 dB で保存されていることが前提となります。

- ブーストを行いたいプリセットを選択します。
- LEVELS/ROUTING メニューで、プリセットのレベルを -6 dB 等、0 dB 以下の値に設定します。
- MOD ボタンを押します。
- 矢印ボタンで Preset Boost を選択します。
- ADJUST ホイールで LEARN を選択します。
- ENTER を押します。
  フットコントローラーから CC を送信するか、ペダル端子に接続されたペダルを動かします。ラッチまたはアンラッチ・タイプのフットスイッチをペダル端子に接続することも可能です。
- ペダル端子の接続先を使用した場合は PEDAL と表示され、MIDI フットコントローラーから CC を送信した場合は CC 番号が表示されます。
- プリセットを保存します。

これで、設定したプリセットを呼び出した度に、LEVELS メニューで設定された-6 dB のレベルになり、プリセット・ブーストを使用している時には一時的に 0 dB までブーストされます。この例のブースト幅は 6 dB となります。

チューニング時にアウトプットをミュートする方法

G-Major 2 をシリアルのセットアップしていることが前提となります。

フロント・パネルからのミュート

- BYPASS ボタンを約 1 秒長押しします。ミュートを解除するには BYPASS ボタンをもう一度押します。

MIDI フットコントローラー等からの CC メッセージによるミュート

- MOD ボタンを押します。
- 矢印ボタンで Tuner Mute を選択します。
- ENTER を押し、学習機能を開始します。ディスプレイが点滅します。
- ミュート制御に使いたい MIDI CC を送信するか、ペダル端子に接続されたスイッチを踏みます。

これで、チューニング・ミュート用のコントローラーが G-Major 2 に記憶されました。

プリセット変更時にディレイの余韻を途切らせたくない

ロング・ディレイのプリセットからショート・ディレイまたはディレイを使用していないプリセットに変更する場合に、元のロング・ディレイは最後まで鳴らし続けたいといった状況に遭遇するかもしれません。

このいわゆる「スピルオーバー」効果を得るには、GLOBAL メニューの FX Mute パラメータを「Soft」に設定します。

ハウツー集

トレモロやビブラートの周期を MIDI シーケンスに同期させる方法

- MIDI クロックを送出するシーケンサーなどの MIDI 出力を、G-Major 2 の MIDI 入力に接続します。
- MIDI ボタンを押します。
- 矢印ボタンで MIDI Clock を選択します。
- ADJUST ホイールで MIDI Clock を On に設定します。

これで G-Major 2 は、受信 MIDI クロックのテンポをグローバル・テンポとして扱うようになります。テンポに対する周期の長さは、エフェクト・ブロックの Tempo パラメータで設定します。

G-Major 2 の SWITCH OUT 端子と MIDI CC を送出する MIDI フットコントローラーを使ったプリアンプのチャンネル・スイッチング

- G-Major 2 の SWITCH OUT 端子をプリアンプ（またはコンボ）アンプのチャンネル・スイッチング用端子に接続します。
- MOD ボタンを押します。
- 矢印ボタンで Relay 1 ／ 2 のいずれかを選択します。
- ENTER を押して学習機能を ON にします。
- MIDI フットコントローラーの MIDI CC スイッチを押します。

これで、MIDI CC スイッチからアンプのチャンネル・スイッチング行なえるようになります。スイッチングしたいチャンネルが他にもある場合は、同じ手順でもう片方のリレーを設定します。

エフェクトについて

エフェクト・メニューの基本操作

フロント・パネルには６つ（ノイズゲートを含めると７つ）のエフェクト・ボタンがあります。基本的な操作方法は次の通りです。

- シングルクリック：エフェクトのオン／オフの状態を切り替えます。
- ダブルクリック：エフェクトのエディット・ページに入ります。

エフェクト・エディット・ページの操作には、矢印ボタンとADJUST ホイールを使います。エフェクトによっては、複数のアルゴリズムが用意されています。たとえばフィルター・ブロックには、フェーザー、トレモロ、パンナー、レゾナンス・フィルターなどがあります。アルゴリズムの選択は、エフェクト・エディット・ページの最初のパラメータとして表示されます。

すべてのエフェクト・ブロックは常に存在していて、いつでもエフェクト・ボタンのシングル・クリックでオン／オフ、またはダブル・クリックでエディットできます。エフェクト・ブロックをバイパスするとエフェクトは無効になります。オフのエフェクトはルーティング（内部接続形態）上は存在しつづけるものの、サウンドには一切影響を与えません。

全てのブロックの設定は、バイパスの状態に関わらずプリセットに保存されています。バイパスされているエフェクトをオンに切り替えると、元の設定のまま再度オンになります。この機能は、コンパクト・エフェクトのオン／オフを切り替えるようなものだとお考えいただけます。

Mix/Wet パラメータ

LEVELS メニューの Kill Dry パラメータをオンにすると、原音はアウトプットされなくなります。この場合、全アルゴリズムの Mix パラメータは Wet に変わります。

NOISE GATE - ノイズゲート

ノイズゲートは、ギターを演奏しない時に信号を減衰させることにより、セットアップや外部要因に起因するヒスやハムなどの雑音を落とす目的に使用されます。

しかしながら、これは、ノイズ問題の根本的な解決につながる訳ではありません。まずは、ノイズの発生を極力防止することが必要です。ノイズの発生要因は様々で、一般的なノイズ源としては、品質の低いケーブル、シールドが不十分なシングルコイルのピックアップ、信号ケーブルの近くにある AC アダプターなどがあげられます。

どの様なギターのセットアップにも、多少のノイズは常在します。通常、ノイズのレベルは演奏のレベルに関わらず一定なため、ノイズの相対的なレベルは楽器を演奏していない時が一番高くなります。ノイズゲートは、無音時のノイズを減少させることに役立ちます。ただし、スレッショルド（しきい値）とリリース・レートを設定する時には注意が必要です。スレッショルドが高すぎると、ギターをソフトに弾いたときなどにゲートが開かなくなります。リリースが遅すぎると、アタックがカットされてしまい、不自然な音になってしまいます。

適正値はインプットの信号によって異なります。通常、クリーントーンとオーバードライブでは、異なる設定が必要となります。

Mode - モード

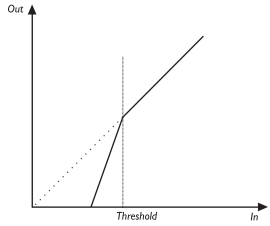
設定レンジ： Off ／ Hard（ハード）／ Soft（ソフト）
ノイズゲートの基本的な特性を指定します。信号がスレッショルドを下回ったときにノイズゲートが信号を減衰させる速度を指定します。

Threshold - スレッショルド

設定レンジ：-60 dB ～ 0 dB
ノイズゲートが信号の減衰を開始するレベルを指定します。このパラメータを設定するには、まずは演奏していない状態でギター本体のボリュームを上げます。続いて、Threshold を-60 dB から所望の減衰開始値まで上げます。後述の Max Damping パラメータが 0 dB の設定ではダンピングが起きませんので、Damp パラメータは 0dB 以外であることが必須となります。

Max. Damping - 最大ダンピング
設定レンジ： 0 dB ～ 90 dB
信号がスレッショルドを下回ったときに信号をアッテネートする強さを設定します。最大の減衰量が常に適切であると思われるかもしれませんが、違和感を感じさせないにはゲートの作動／非作動時の切り替えがスムーズであることも重要なポイントとなります。ゲートの状態によるレベル差が大きい程、ノイズゲートの切り替わりが明確になりがちです。適正値はセットアップによって大きく異なりますので、様々な設定でお試しの上、ご使用のセットアップに合った値でご使用ください。

Release - リリース
設定レンジ： 0 dB/sec ～ 200 dB/sec
入力信号がスレッショルドを超えた時に信号がリリース（解放）される速さを設定します。原則として、このパラメータは高めの設定でご使用ください。



EQ - パラメトリック EQ

EQ のパラメータにアクセスするには、GATE/EQ ボタンをダブルクリックして、矢印ボタンでパラメータを切り替えます。

G-Major 2 の EQ は、3 バンドのパラメトリック構成です。ギター・セットアップの EQ に適した 3 つの周波数レンジがあらかじめ設定されていますが、Freq パラメータで周波数の指定を変更することも可能です。

バンド毎（EQ 1／2／3）に次のパラメータが用意されています。

EQ Active - EQ アクティブ
EQ をオン／オフします。

EQ とノイズゲートは同じボタンに割り当てられており、ボタンの LED はノイズゲートの状態のみを示します。EQ のオン／オフの状態はボタンの LED とは完全に独立しており、設定はこのパラメータからのみ行ないます。

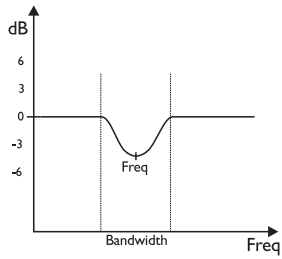
Frequency - フリーケンシー（周波数）
設定レンジ： 40 Hz ～ 20 kHz
アッテネートまたはブーストしたい周波数の中心点を指定します。

Gain - ゲイン
設定レンジ：-12 ～ +12 dB
Frequency パラメータで指定した周波数レンジのブースト／カット量を指定します。

Width - ワイズ（幅）
設定レンジ： 0.2 ～ 4 oct
Freq で指定した周波数を中心にして、どれだけの幅で EQ を施すかを指定します。

例
- まずは、トレブル／ミッド／ベースのどの帯域を変えたいかを決め、設定は帯域一つずつ行ないます。
- 該当する周波数帯域のゲインをブーストまたはカットします。
- +6 dB など一度ゲインの量を決めたら、Freq パラメータで周波数を移動してみて、周波数が本当に狙っているポイントに合っているか確認します。

必要に応じて、各バンドで同じ手順を繰り返します。



極端な設定は内部オーバーロードの原因となり、ノイズを発生させる可能性があります。お好みのサウンドを得るために極端な設定が必要だと感じられた場合には、信号の全体の流れの中で他に調節できる箇所がないか今一度ご確認ください。

Wah Wah - ワウワウ

このエフェクト・タイプでは、エキスプレッション・ペダルを Sweep パラメーターに割り当てることにより、足下でエフェクトをコントロールする単体ワウ・ペダルと同様の効果を得られます。このワウ・エフェクトを使ったファクトリー・プリセットを選択すると、ペダル端子に接続されたエキスプレッション・ペダルは自動的にこのパラメータをコントロールする様に設定されています。

Sweep (Freq) - スイープ周波数
設定レンジ： 0 ～ 100%
エキスプレッション・ペダルをワウ・ペダルとして使用するには、ペダルをこのパラメータに割り当てます。

Range - レンジ（楽器モード）
設定レンジ： Low ／ High
使用する楽器によって、ワウ効果の適切な周波数レンジは異なります。このパラメーターは、ワウ効果の周波数レンジを設定します。

Mix - ミックス
設定レンジ： 0 ～ 100 %
このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル
設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Touch Wah - タッチ・ワウ

比較的狭い周波数帯域をブーストし、レンジ内をスイープします。スイープは入力のダイナミクス（強弱）でコントロールします。すなわち、より強く演奏することにより、ブーストされる周波数が高くなります。

Sense (Sensitivity) - センシティビティ（感度）
設定レンジ： 0 ～ 10
効果の強弱の感度を設定します。センシティビティは、入力レベルに合わせて設定します。タッチ・ワウの前のエフェクトの出力レベルを揃えないと、タッチ・ワウの設定を変更しなくてもエフェクトのかかり具合が異なることとなりますので、ご注意ください。

Resp - レスポンス
設定レンジ： Slow ／ Fast
効果の速度（レスポンス・タイム）を指定します。

Range - レンジ（楽器モード）
設定レンジ： Low ／ High
使用する楽器によって、タッチ・ワウ効果の適切な周波数レンジは異なります。タッチ・ワウ効果の周波数レンジをロー／ハイのいずれかに設定します。

Mix - ミックス
設定レンジ： 0 ～ 100 %
このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル
設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Auto Wah - オート・ワウ

比較的狭い周波数帯域をブーストし、レンジ内をスイープします。スイープは LFO（低周波発振器）によりコントロールされます。

Speed - スピード
設定レンジ： 0.050 Hz ～ 20 Hz
エフェクトのスピードを調節します。

Tempo - テンポ
設定レンジ： Ignore（無視）／ 2 ～ 1/32T
2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。

Shape - シェイプ（形状）
設定レンジ： Triangle（三角）／ Sine（サイン）
信号を変調する波形を指定します。

Range - レンジ（楽器モード）
設定レンジ： Low ／ High
使用する楽器によって、オート・ワウ効果の適切な周波数レンジは異なります。オート・ワウ効果の周波数レンジをロー／ハイのいずれかに設定します。

Mix - ミックス
設定レンジ： 0 ～ 100 %
このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル
設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Resonance Filter - レゾナンス・フィルター

基本的には、可変 Q（レゾナンス）を持ったハイカット・フィルターです。Resonance（Q）パラメータを上げると、カットオフ周波数におけるピークが狭く、かつ鋭くなり、特徴的なサウンドを形成します。

Style - スタイル
設定レンジ： 2nd ／ 4th
フィルターの鋭さを設定します。2 次フィルターは 12 dB ／オクターブ、4 次フィルターは 24 dB ／オクターブです。4 次フィルターは、2 次フィルターよりも鳴りの強い、極端なレゾナンス効果を生成します。

Hi-Cut - ハイカット周波数
レンジ： 160 Hz ～ 14 kHz
この値より高い周波数のレベルを減少させます。

Resnce (Resonance) - レゾナンス
レンジ： 0 ～ 100%
ハイカット・フィルターのレゾナンス量を設定します。

OutLev - アウトプット・レベル
設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Touch Resonance Filter - タッチ・レゾナンス・フィルター

タッチ・レゾナンス・フィルターは、タッチワウに近い効果を実現します。レゾナンス周波数が入力のレベルに連動します。

Touch Resonance Filter の追加パラメータ

Sense (Sensitivity) - センシティビティ
設定レンジ： 0 ～ 10
FILTER ブロックのインプット・レベルに合わせて入力感度を設定します。設定が低いほど、効果を得るのに強く演奏するのが必要となります。

Response - レスポンス
設定レンジ： Slow ／ Fast
入力レベルに応じた周波数のスイープ速度を設定します。

FMax (Frequency Max) - 最大周波数
設定レンジ： 1 ～ 10.0 kHz
スイープが行われる周波数帯域を設定します。通常、周波数帯域全体をスイープさせてしまうと、効果が強すぎてサウンドがきつく感じられます。

2 kHz ～ 4 kHz 近辺に設定することで、一般的なサウンドが得られます。

Tremolo - トレモロ

概要
トレモロは基本的に LFO によってレベルを変調する効果です。G-Major 2 にはいくつかのバリエーションが用意されており、ソフトで滑らかな効果からハードでアグレッシブなものまで幅広いトレモロが得られます。

Speed - スピード
設定レンジ： 0.050 Hz ～ 20 Hz
エフェクトの周期を調節します。

Tempo - テンポ
設定レンジ： Ignore（無視）／ 2 ～ 1/32T
2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。

NOTE GLOBAL メニューの Tap Master パラメータで、プリセットの変更の際にグローバル・テンポと Speed パラメータのいずれを適用するかを指定できます。

Depth - デプス
設定レンジ： 0 ～ 100%
エフェクトの深さを調節します。値は、変調波形の振幅を示します。

Type - タイプ
設定レンジ： Soft（ソフト - サイン）／ Hard（ハード - 矩形）
2 種類のトレモロ曲線を選択できます。Hard はより強い効果が得られます。実際に違いを耳で聞いてみてください。

サイン波

矩形波

PulseWidth - パルスワイズ（パルス幅）
設定レンジ： 0 ～ 100 %
LFO 波形のパルス幅を調節します。Type が Hard の設定でこの設定値が 20% の場合は、周期の凹凸が 80% と 20% のバランスとなります。Type が Soft の場合、50% の設定ではサイン波が得られ、0% では下から上に向かう波形、100% では上から下に向かう波形となります。

パルスワイズ

Hi-Cut - ハイカット
設定レンジ： 20 Hz ～ 20 kHz
この値より高い周波数のレベルを減少させます。Depth の設定を変更することなく効果を和らげるには、このパラメータを試してみてください。

OutLev - アウトプット・レベル
設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Panner - パンナー

概要
信号を左右チャンネル間に揺らします。ステレオ感の強いエフェクトを得られます。

Speed - スピード
設定レンジ： 0.050 Hz ～ 20 Hz
エフェクトの速度を調節します。

Tempo - テンポ
設定レンジ： Ignore（無視）／ 2 ～ 1/32T
2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメータの設定を適用します。

NOTE GLOBAL メニューの Tap Master パラメータで、プリセットの変更の際にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメータのいずれを適用するかを指定できます。

Width - パンニング幅
設定 レンジ： 0 ～ 100%
100% の設定では、信号は左から右へと完全に移動します。設定を落とすと幅が狭まり、全体のサウンドなじみやすいサウンドが得られます。

OutLev - アウトプット・レベル
設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Compressor - コンプレッサー

概要

コンプレッサーは、信号のダイナミクス（音量の強弱）をコントロールするためのエフェクトです。そもそも、そうすることによってなぜサウンドの印象が変わるのでしょうか。確実に言えることとしては、ギターにコンプレッサーをかけない方がいい状況もあれば、コンプレッサーがサウンドをよりソリッドにする鍵となることもあります。いくつかの例を紹介します。

常に一定のレベルでクリーンなリズム・ギターのパターンを延々と繰り返したいとします。これは、超人でない限り不可能と言ってよく、ギターの達人でもたまにはストロークが強すぎることもあるでしょう。現場では、これは単純に「ミスタッチ」の一言で済まされるとは限らず、強く弾きすぎた時の音量が大きすぎると、サウンド・エンジニアはギターのレベルを下げ、ピークが耳障りになるのを隠そうとしがちです。全体的なレベルを下げてしまうと、今度は弱いストロークの時にギターの音が消えてしまいます。こういった状況は、コンプレッサーを導入するアプローチが最適といえます。コンプレッサーを正しく設定すれば、最大のピークを抑えることにより音量的なばらつきを圧縮し、プレイヤーとエンジニア両方にとってギターのレベルを適正に保ちやすくなります。

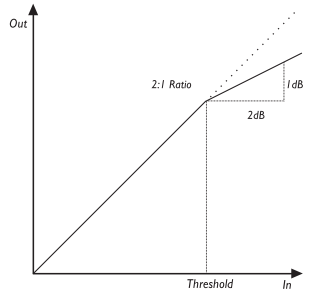
このほかリード音にコンプレッションをかけ、レベルを均等化するという使い方もあります。スレッショルドを低く設定してコンプレッサーを常に作動させる一方でレシオを高くすれば、一聴してわかりやすいコンプレッション効果が得られます。

逆に、演奏スタイルやジャンル・楽曲が広いダイナミック・レンジを要求する場合は、コンプレッションは演奏の味を損なってしまうと言ったことも考えられます。

コンプレッサーは、適切な設定では非常に明確な利点を持つものの、かけすぎるとサウンドを損ないます。これは、他の多くのエフェクトにも当てはまりますが、ダイナミクス系のエフェクトは特にそうであると言えます。

実際の活用法は、演奏法や音楽のスタイルなどによって、様々です。まずはコンプレッサーが使われているファクトリー・プリセットをリードとバッキング用のサウンドでお試しいただき、コンプレッサーの設定をご自身のスタイルに合わせて調節してみてください。他のエフェクト同様、実験することが鍵となります。

図



Threshold - スレッショルド

設定レンジ：-30 dB ～ 0 dB

入力がこの値を超えると、コンプレッサーが作動します。スレッショルドを超えた信号は、レシオ／アタック／リリースで設定された特性に合わせてプロセスされます。

Ratio - レシオ

設定レンジ： Off ～ Infinite（無限）:1

レシオの設定値は、信号の圧縮の強さを示します。

例： 2:1 にレシオを設定した場合、入力がスレッショルド値から 4 dB 上がると、出力は 2 dB 上がります。Infinite の設定では、リミッターとして作動します。

Attack - アタック

設定レンジ： 0 ms ～ 200 ms

コンプレッサーが反応するのにかかる時間です。アタック・タイムが短いほど、信号がスレッショルド値を超えてから指定レシオに圧縮されるまでの時間が短くなります。

Release - リリース

設定レンジ： 0 ms ～ 200 ms

入力信号がスレッショルド値を下回った際に、コンプレッサーがゲイン・リダクションを「解放」し、入出力レベルの比率が 1:1 に戻るまでの時間です。

Gain - ゲイン

設定レンジ：-6 dB ～ +6 dB

ゲインを調節します。コンプレッションによって変動したレベルの補正に使用します。

PITCH - ピッチ

Detune - ディチューン

ディチューンは、指定したセント数、音程をずらします（100セント＝半音）。効果はコーラスと類似していますが、ディチューンは音程差が一定で、元の音程に対してピッチを固定幅ずらしたものを重ねることでその効果を得ます。

PITCH ブロックのディチューン・アルゴリズムは 2 ヴォイスの構成です。サウンドが「直接的」過ぎると感じる時は、Voice 1 に +2 セント、Voice 2 に-3 セント、といった具合に、ヴォイス毎の設定を数セントずらしてみてください。

各ヴォイスにディレイを与えることができ、スラップバック効果を生成できます。

Voice L - ヴォイス L
設定レンジ：-100 ～ 100（セント）
ヴォイス 1 のディチューン量を指定します。

Voice R - ヴォイス R
設定レンジ：-100 ～ 100（セント）
ヴォイス 2 のディチューン量を指定します。

Dly L - ディレイ L
設定レンジ： 0 ～ 50 ms
ヴォイス 1 に与えるディレイの量を指定します。

Dly R - ディレイ R
設定レンジ： 0 ～ 50 ms
ヴォイス 2 に与えるディレイの量を指定します。

Mix - ミックス
設定レンジ： 0 ～ 100 %
このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル
設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Whammy - ワーミー

外部エキスプレッション・ペダルから音程をコントロールできます。

Pitch - ピッチ
設定レンジ： 0 ～ 100%
ドライ信号とウェット（エフェクト）信号の比率を指定します。100% に設定するとギターの原音は聴こえずにピッチ・プロセッシングされたサウンドのみとなります（シリアルとセミ・パラレル・モードのみ）。

Direction - 方向
設定レンジ： Up ／ Down
ペダルを踏み込んだ時にピッチを上げるか下げるかを設定します。

Range - レンジ
設定レンジ： 1-Oct ／ 2-Oct
音程変更の上下幅を指定します。極端な効果には 2-Oct を、一般的なワーミー効果には 1-Oct を選択します。

OutLev - アウトプット・レベル
設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Octaver - オクターバー

オクターバーは、原音に対して、上下いずれかの方向に 1 か 2 オクターブ音程をずらした音を加えます。

Dir（Direction） - ディレクション（方向）
設定レンジ： Up ／ Down
原音に対してのオクターバーの音程を、上下で指定します。

Range - レンジ
設定レンジ： 1 Octaves ／ 2 Octaves
原音に対してのオクターブ差を指定します。オクターブの上下の指定は、Dir パラメータで行ないます。

Mix - ミックス
設定レンジ： 0 ～ 100 %
このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル
設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

PITCH - ピッチ

Pitch Shifter - ピッチシフター

概要

ピッチシフターは、信号に特定の音程をずらした音を加えます。G-Major 2 のピッチシフターは、原音に対して 2 ヴォイス分、それぞれ最大 1 オクターブずらした音を加えられます。G-Major 2 の処理速度は、ピッチ検出にかかる遅延を気にすることなく使用でき、かつてのオクターバーと比べ物にならないほど高速です。-1200 セント（100 セント＝半音）に設定したヴォイス 1 つだけを Mix=100% で使用すると、そこそこなベース・シミュレーションが行なえます。

Voice 1 - ヴォイス 1

設定レンジ：-2400 ～ 2400 Cent（セント）
ヴォイス 1 のピッチシフト量を指定します。100 セントは半音なので、入力ピッチの 1 オクターブ下から 1 オクターブ上まで音程を指定できます。

Voice 2 - ヴォイス 2

設定レンジ：-2400 ～ 2400 Cent（セント）
ヴォイス 2 のピッチシフト量を指定します。100 セントは半音なので、入力ピッチの 1 オクターブ下から 1 オクターブ上まで音程を指定できます。

Pan 1 - パン 1

設定レンジ： 50L ～ 50R
ヴォイス 1 のパンニングを指定します。

Pan 2 - パン 2

設定レンジ： 50L ～ 50R
ヴォイス 2 のパンニングを指定します。

Delay 1 - ディレイ 1

設定レンジ： 0 ～ 350ms
ヴォイス 1 のディレイ・タイムです。

Delay 2 - ディレイ 2

設定レンジ： 0 ～ 350ms
ヴォイス 2 のディレイ・タイムです。

FB 1 - フィードバック 1

設定レンジ： 0 ～ 100%
ヴォイス 1 のディレイ成分の反復量を指定します。

FB 2 - フィードバック 2

設定レンジ： 0 ～ 100%
ヴォイス 2 のディレイ成分の反復量を指定します。

Level 1 - レベル 1

設定レンジ：-100dB ～ 0dB
ヴォイス 1 のレベルを指定します。

Level 2 - レベル 2

設定レンジ：-100dB ～ 0dB
ヴォイス 2 のレベルを指定します。

Mix - ミックス

設定レンジ： 0 ～ 100 %
このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル

設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Intelligent Pitch Shifter - インテリジェント・ピッチシフター

G-Major 2 のインテリジェント・ピッチシフターは 2 ヴォイスの構成で、あらゆるキーで様々なスケールを使用可能です。ヴォイスのレンジは、上下それぞれ 13 スケール・ステップで、これは音程に換算すると上下 1 オクターブを超えたダイアトニック 6th となります。

Key - キー

インテリジェント・ピッチシフターに正しくヴォイシングを行わせるには、演奏するキーを指定する必要があります。次のキーを選択できます： C ／ C# ／ D ／ D# ／ E ／ F ／ F# ／ G ／ G# ／ A ／ A# ／ B。

Scale - スケール

演奏するスケールを指定します。次のスケールを選択できます：

ラベル	フルネーム	スケール・ステップ
Ionian	Ionian - イオニアン	1,2,3,4,5,6,7
Dorian	Dorian - ドリアン	1,2,b3,4,5,6,b7
Phrygi	Phrygian - フリジアン	1,b2,b3,4,5,b6,b7
Lydian	Lydian - リディアン	1,2,3,#4,5,6,7
Mixoly	Mixolydian - ミキソリディアン	1,2,3,4,5,6,b7
Aeolia	Aeolian - エオリアン	1,2,b3,4,5,b6,b7
Locria	Locrian - ロクリアン	1,b2,b3,4,b5,b6,b7
PntMin	Pentatonic minor - ペンタトニック・マイナー	1,b3,4,5,b7
PntMaj	Pentatonic major - ペンタトニック・メジャー	1,2,3,5,6
Blues	Blues - ブルーズ	1,b3,4,b5,5,b7
DimHlf	Diminished half - ディミニッシュ・ハーフ	1,b2,b3,3,b5,5,6,b7
DimWhl	Diminished whole - ディミニッシュ・ホール	1,2,b3,4,b5,b6,6,7
Whole	Wholetone - ホールトーン	1,2,3,#4,#5,b7
MelMin	Melodic minor - メロディック・マイナー	1,2,b3,4,5,6,7
HrmMin	Harmonic minor - ハーモニック・マイナー	1,2,b3,4,5,b6,7
SuperLoc	Super Locrian - スーパー・ロクリアン	1,b2,b3,b4,b5,b6,b7
Lyd b7	Lydian b7 - リディアン b7	1,2,3,#4,5,6,b7
PhryMa	Phrygian major - フリジアン・メジャー	1,b2,3,4,5,b6,b7

Voice 1-2 - ヴォイス 1-2

設定レンジ：-13 ～ Unison（ユニゾン）～ 13

インテリジェント・ピッチシフターは、選択したスケールで 2 つのヴォイスを追加できます。演奏されている音程と、選択したスケールタイプならびにキーに応じて、正しいインターバルが自動的に計算されます。

Level 1-2 - レベル 1-2

設定レンジ：-100 ～ 0 dB

各ヴォイスのレベルを独立して調節できます。

Pan Position 1-2 - パン・ポジション 1-2

設定レンジ：± 50

各ヴォイスのパンニング・ポジションを独立して調節できます。0 がセンターとなります。ヴォイスをパンニングすることによって、よりワイドなサウンドが得られます。

Delay 1-2 - ディレイ 1-2

設定レンジ： 0 ～ 50 ms

二人のギタリストが同時に演奏している場合、タイミングが完全に一致することはあり得ず、若干のズレが生じます。ハーモニー・ヴォイスに対して若干のディレイを加えることで、その効果をシミュレートできます。わずか 10 ～ 20 ms 程度のディレイで、ナチュラル且つスムーズな効果が得られます。

Mix - ミックス

設定レンジ： 0 ～ 100 %

このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル

設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

MODULATION - モジュレーション

Chorus - コーラス

G-Major 2 はシンプルなクラシック・コーラスと、いくつかの追加パラメータが用意されているアドバンス・コーラス、そしてトライ・コーラスが用意されています。

コーラスは、信号を 2 系統に分割して、片方の音程に若干の変調を加える効果です。

Classic Chorus - クラシック・コーラス

Speed - スピード

設定レンジ： 0.050 mHz ～ 20 Hz

エフェクトの速度を調節します。

Depth - デプス

設定レンジ： 0 ～ 100 %

エフェクトの深さを調節します。ノブを時計回りに回す程、変調波形の振幅が大きくなります。

Tempo - テンポ

設定レンジ： Ignore（無視）／ 2 ～ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。

GLOBAL メニューの Tap Master パラメータで、プリセットの変更の際にグローバル・テンポと Speed パラメータのいずれを適用するかを指定できます。

HiCut - ハイカット

設定レンジ： 20 Hz ～ 20 kHz

この値より高い周波数のレベルを減少させます。効果が強すぎると感じ、ミックスまたは出力レベルを下げても効果が思う様に低減されない場合は、このパラメータを試してみてください。

Mix - ミックス

設定レンジ： 0 ～ 100 %

このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル

設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Advanced Chorus - アドバンス・コーラス

アドバンス・コーラスは、クラシック・コーラスの全パラメータに加え、次のパラメータが用意されています。

Chorus Dl (Chorus Delay) - コーラス・ディレイ

設定レンジ： 0 ～ 50 ms

前述の通り、コーラス／フランジャーは LFO 変調されたディレイと解釈できます。ここで、そのディレイ・タイムを指定できます。典型的なコーラスは 10 ms 前後、フランジャーは 5 ms 前後の設定となります。

コーラスの本来の使い方ではありませんが、ディレイを 30 ～ 50ms と長めに設定することにより、スラップバック効果を意図的に活用することができます。

Golden Ratio - ゴールデン・レシオ

設定レンジ： Off ／ On

ゴールデン・レシオは、スピードとデプスの相互関係を自動的に調節し、片方のパラメータを調節した際にもう片方を自動的に補正することにより、聴感上のエフェクトの強さを一定に保つ機能です。この機能は、名機 TC 2290 から継承されています。

Phase Reverse - フェーズ反転

設定レンジ： Off ／ On

エフェクト信号の右チャンネルの位相を反転させます。この機能は、ステレオ・イメージを広げるのに有効です。

Tri-Chorus Normal/Asym - トライ・コーラス（ノーマル／非対称）

トライ・コーラスはコーラスのバリエーションで、デプス／スピード／フェイズ／ディレイ・タイムに異なるオフセットをかけた3つのコーラスを混ぜ合わせることによって、独特でステレオ感の強い高密度のコーラス・サウンドを生成します。Speed ／ Depth ／ Time パラメータの内容は、標準的なコーラスと同じです。

Normal & Asymmetrical - ノーマル & 非対称

Normal - ノーマル

「ノーマル」のバリエーションでは3つのコーラスの位相を90°／180°／270°ずらし、比較的標準的なコーラス・サウンドが得られます。

Asymmetrical - 非対称

「非対称」のバリエーションでは非対称型のフェイズとデプスのチューニングがなされており、より派手な効果が得られます。

Speed - スピード

設定レンジ： 0.050 mHz ～ 20 Hz

エフェクトの速度を調節します。

Depth - デプス

設定レンジ： 0 ～ 100 %

エフェクトの深さを調節します。ノブを時計回りに回す程、変調波形の振幅が大きくなります。

Tempo - テンポ

設定レンジ： Ignore（無視）／ 2 ～ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。

NOTE GLOBAL メニューの Tap Master パラメータで、プリセットの変更の際にグローバル・テンポと Speed パラメータのいずれを適用するかを指定できます。

Width - ワイズ

設定レンジ： 0 ～ 100 %

設定を上げるほどエフェクトのスペース感が増します。この差は、ステレオのセットアップでより顕著に表れます。0% の設定では狭く、100% の設定では広がりのあるサウンドになります。

Phase Reverse - フェーズ反転

設定レンジ： Off ／ On

エフェクト信号の右チャンネルの位相を反転させます。この機能は、ステレオ・イメージを広げるのに有効です。

Mix - ミックス

設定レンジ： 0 ～ 100 %

このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル

設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Flanger - フランジャー

概要

フランジャーはコーラスと同じ系統のモジュレーション・エフェクトです。原音は 2 系統に分割され、片方の音程が変調されます。

フランジャーは、信号の一部に若干のディレイを施して、エフェクトの入力にフィードバックすることにより、その独特なサウンドを生成します。その効果を確認するには、フィードバックを様々な値でお試しください。

Classic Flanger - クラシック・フランジャー

Speed - スピード

設定レンジ： 0.050 mHz ～ 20 Hz

エフェクトの速度を調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ： Ignore（無視）／ 2 ～ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。

Tempo を Ignore 以外の値に設定すると、Speed パラメータによって定義したテンポは無視されます。

GLOBAL メニューの Tap Master パラメータで、プリセットの変更の際にグローバル・テンポと Speed パラメータのいずれを適用するかを指定できます。

Depth - デプス

設定レンジ： 0 ～ 100 %

エフェクトの深さを調節します。ノブを時計回りに回す程、変調波形の振幅が大きくなります。

HiCut - ハイカット

設定レンジ： 20 Hz ～ 20 kHz

この値より高い周波数のレベルを減少させます。効果が強すぎると感じ、ミックスないし出力レベルを下げても効果が思う様に低減されない場合は、このパラメータを試してみてください。

Feedback - フィードバック

設定レンジ：-100 ～ 100

短いモジュレーション・ディレイの成分をエフェクトの出力から入力に循環させるフィードバック（レゾナンス）信号の量を調節します。フィードバック値が高きすぎる（90 ～ 95% 以上）と、内部フィードバックにより発振ノイズが発生する可能性がありますので、大音量で試すときには注意してください。マイナスの値に設定すると、アルゴリズムの入力にフィードバックされる信号の位相が反転します。

FB Cut（Feedback Highcut）- フィードバック・ハイカット

設定レンジ： 20 Hz ～ 20 kHz

Feedback パラメータの設定によって生じるレゾナンス成分の高周波をアッテネートします。

Mix - ミックス

設定レンジ： 0 ～ 100 %

このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル

設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Advanced Flanger - アドバンス・フランジャー

アドバンス・フランジャーは、クラシック・フランジャーの全パラメータに加え、次のパラメータが用意されています。

Flanger Delay - フランジャー・ディレイ

設定レンジ： 0 ～ 50 ms

フランジャーのディレイ・タイムを指定します。典型的なコーラスは 10 ms 前後、フランジャーは 5 ms 前後の設定となります。

Golden Ratio - ゴールデン・レシオ

設定レンジ： Off ／ On

ゴールデン・レシオは、スピードとデプスの相互関係を自動的に調節し、片方のパラメータを調節した際にもう片方を自動的に補正することにより、聴感上のエフェクトの強さを一定に保つ機能です。この機能は、名機 TC 2290 から継承されています。

Phase Reverse - フェーズ反転

設定レンジ： Off ／ On

エフェクト信号の右チャンネルの位相を反転させます。この機能は、ステレオ・イメージを広げるのに有効です。

Through Zero Flanger (Negative/Positive) - スルー・ゼロ・フランジャー（プラス／マイナス）

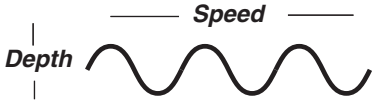
TZF フランジャーは、複数のテープデッキを使用した古典的なフランジャー効果の生成方法をエミュレートします。昔は、2 台のテープデッキを同時に再生させて、それぞれ異なるタイミングでデッキの再生スピードを上下に変えることによってフランジャー効果を作り出していました。この手法によるフランジャー効果は、再生中の 2 つのテープがまるで同じ再生ポイント（ゼロ・ポイント）を通過する際に、独特な位相のキャンセレーションが生じました。現在一般的なフランジャー・ペダルやアルゴリズムでは 2 系統の信号が時間軸上まるで同一のポイントを交差することはないために、今までフェイズ・キャンセレーションを起こすことはできませんでした。G-Major 2 の TZF モードは、これを可能にします。

MODULATION - モジュレーション

Vibrato - ビブラート

概要

ビブラートは入力信号のピッチを変調するエフェクトです。得られる結果は、ボーカリストのビブラート・テクニックに似ています。コーラスやフランジャーとは異なり、ピッチ変調音に対して元の信号は加えません。



Speed - スピード

設定レンジ： 0.050 mHz ～ 19.95 Hz

エフェクトの速度を調節します。

このエフェクトの周期は、状況によってこのパラメータか Tempo パラメータのいずれかが適用されます。Speed パラメータは、GLOBAL メニューの Tap Master パラメータが Ignore に設定されている場合にのみ有効です。

Depth - デプス

設定レンジ： 0 ～ 100 %

エフェクトの深さを調節します。ノブを時計回りに回す程、変調波形の振幅が大きくなります。

Tempo - テンポ

設定レンジ： 1 ～ 1/32T ／ Ignored（無視）

グローバル・テンポとの関係を指定します。

1 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignored の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。

HiCut - ハイカット

設定レンジ： 19.95 Hz ～ 20 kHz

この値より高い周波数のレベルを減少させます。効果が強すぎると感じる場合にお試しください。

OutLev - アウトプット・レベル

設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Vintage Phaser & Smooth Phaser - ヴィンテージ & スムーズ・フェーザー

概要

G-Major 2 は 2 種類のフェーザーを搭載しています。ヴィンテージ・フェーザーは、古いコンパクト・エフェクトに似たフェージング効果をもたらします。スムーズ・フェーザーはより繊細で、薄い効果を軽くかけるときに優れた性能を発揮します。

ヴィンテージ・フェーザーは 4 つのオールパス・フィルターを使用しています。それがコム・フィルター的な特性を持ち、エフェクト音がドライ音とミックスされることにより、独特な位相感が得られます。

スムーズ・フェーザーでは 12 のオールパス・フィルターを使用しています。フィルター数を多く使用することにより、ヴィンテージ・フェーザーよりも滑らかなサウンドが得られます。

Speed - スピード

設定レンジ： 0.050 mHz ～ 19.95 Hz
エフェクトの速度を調節します。

Depth - デプス

設定レンジ： 0 ～ 100 %
エフェクトの深さを調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ： 1 ～ 1/32T ／ Ignored（無視）
グローバル・テンポとの関係を指定します。

1 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignored の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。

Feedback - フィードバック

設定レンジ：-100 ～ +100
フェーザーのフィードバック量を調節します。-100 に設定すると、アルゴリズムの入力にフィードバックされる信号の位相が反転します。

Range - レンジ

設定レンジ： Low ／ High
フェーザー効果の重心となる周波数帯域を指定します。

Phase Reverse - フェーズ反転

設定レンジ： On ／ Off
On に設定すると、LFO 波形の開始点に若干のディレイが加わり、位相が変わります。左右チャンネルで異なる変調波形を使用することにより、より派手なフェーザー効果が得られます。

Mix - ミックス

設定レンジ： 0 ～ 100 %
このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル

設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Vintage Univibe - ヴィンテージ・ユニヴァイブ

Vintage Univibe はクラシックなロータリー・スピーカーのエフェクトを再現します。フェーズ間の強い厚みのあるコーラスから密度の高いビブラートまで、幅広い効果が得られます。スピードの設定が 2 つ用意されており、ロータリー・スピーカー同様にスピードを切り替える際の加速／減速による独特な効果を得られます。効果をご確認いただくとわかる通り、Univibe はレズリーのコピーではなく、Univibe ならではの独自のキャラクターを持っています。

Speed 1/2 - スピード 1/2
設定レンジ： 150 Hz ～ 10 kHz
外部コントローラーからここで指定した 2 つの Speed 設定を切り替えることで「ギア変更」を行ないます。設定値の差が大きい程、切り替えの際のエフェクトが派手になります。

Depth - デプス
設定レンジ： 0 ～ 100 %
ピッチ変調の深さを調節します。

Tempo 1/2 - テンポ 1/2
設定レンジ： Ignored（無視）／ 1 ～ 1/32T
1 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignored の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。

GLOBAL メニューの Tap Master パラメータで、プリセットの変更の際にグローバル・テンポと Speed パラメータのいずれを適用するかを指定できます。

Attack - アタック
設定レンジ： 0.05 ～ 5 sec
低速から高速への切り替わりに要する時間を指定します。Speed 1 と Speed 2 のどちらを「低速」「高速」にしても構いません。

Attack - アタック
設定レンジ： 0.05 ～ 5 sec
Attack パラメータの逆で、高速から低速への切り替わりに要する時間を指定します。

Select - セレクト（選択）
設定レンジ： Speed 1 ／ Speed 2
ディフォルトで使用する Speed パラメータを指定します。このパラメータにモディファイアーを指定することでフットスイッチや MIDI フットコントローラー等の外部コントローラからスピードを切り替えられます。

BpMode - バイパス・モード
設定レンジ： Direct（ダイレクト）／ Delayed（ディレイ）
スピード 1/2 間の切り替え、またはエフェクトをバイパスした場合のエフェクトの反応を指定します。Direct を選択すると、ユニヴァイブのエフェクトは瞬時に切れます。Delayed を選択すると、Release パラメータの設定に応じた速度で減速します。

PhaseReverse - フェイズ（位相）反転
設定レンジ： Off ／ On
位相を 180° 反転させます。ぜひお試しください。

Mix - ミックス
設定レンジ： 0 ～ 100 %
このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル
設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Modern Univibe - モダン・ユニヴァイブ

モダン・ユニヴァイブは、ヴィンテージ版と同じパラメータ構成ながらも、質感が大きく異なります。回転している感覚は若干薄いながらも、フェイズ感の強いより派手な効果が得られます。

ディレイの共通パラメータ

次のパラメータは、全ディレイ・タイプに共通です。特定のタイプに固有のパラメータは、それぞれのディレイ・タイプのセクションで解説します。

Delay - ディレイ・タイム
レンジ： 0 ～ 1800 ms
ディレイ成分の間隔を指定します。

Tempo - テンポ
設定レンジ： Ignore（無視）／ 1 ～ 1/32T
2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignored の設定では、Delay パラメータの設定を適用します。

GLOBAL メニューの Tap Master パラメータで、プリセットの変更の際にグローバル・テンポと Delay パラメータのいずれを適用するかを指定できます。

Fb（Feedback）- フィードバック
設定レンジ： 0 ～ 120%
エフェクトの出力から入力に循環させる信号の量を設定し、反復する成分の量を指定します。

高い設定値では内部フィードバックが生じますので、十分にお気を付けください。G-Major 2 はディレイのスピルオーバー機能を搭載しているため、内部フィードバックが生じた際に一度ディレイをオフにしただけではフィードバックは消えません。ここでの設定を 100% 以下に落とすのが一番直接的な解決法ですが、2 度連続してディレイ・タイプを変更するか、ディレイを使用している他のプリセットに 2 度連続して切り替える方法もございます。

FbhCut（Feedback HiCut）- フィードバック・ハイカット
設定レンジ： 20 Hz ～ 20 kHz
最新のデジタル技術は、極めて正確な音声の再現を可能とし、ディレイ効果における反復成分なども極めて高音質で行える様になりました。しかし、原音に忠実なディレイは、その忠実さ故に原音を邪魔してしまう場合があります。

FbhCut は、指定周波数を超える周波数のレベルをアッテネートします。ディレイのハイを落とすことによってアナログ・ライクなサウンドが得られ、多くの場面で、より馴染みのよいサウンドに仕立て上げることができます。

LoCut（Feedback LoCut） - フィードバック・ローカット
設定レンジ： 20 Hz ～ 20 kHz
指定周波数を下回る周波数のレベルを落とします。ここでローを削ることで、Feedback HiCut パラメータがエフェクトのハイエンドを削ぐのと同様に、ディレイ成分をより馴染みのよいサウンドに仕立て上げることができる場合があります。

Mix - ミックス
設定レンジ： 0 ～ 100 %
このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル
設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Ping Pong - ピンポン

ピンポン・ディレイは、ディレイの反復成分を左右にパンニングし、ステレオ感を強調します。Width パラメータで、エフェクトのステレオ感を調節できます。

このディレイ・タイプでは、「ディレイの共通パラメータ」セクションの内容に加えて、次の追加パラメータが用意されています。

Width - ワイズ（幅）
設定レンジ： 0 ～ 100 %
ディレイの反復成分がセンターからどれだけ左右に振られるかを指定します。

Dynamic Delay - ダイナミック・ディレイ

ダイナミック・ディレイは名機 TC2290 で初めて搭載された機能で、ディレイの出力レベルを入力レベルのダイナミクスに連動させます。演奏中は原音をクリアに聞かせ、演奏していない時点でディレイ成分をより明確に聞かせることができる、デリケートで上品な効果です。

Sense パラメータで、ディレイが再浮上する際の特性を指定できます。Offset パラメータで、ステレオ・イメージを広げることができます。

このディレイ・タイプでは、「ディレイの共通パラメータ」セクションの内容に加えて、次の追加パラメータが用意されています。

Offset - オフセット
設定レンジ： 0 ～ 200
右チャンネルのディレイ成分のタイムをオフセットします。左右チャンネルのディレイ・タイムは、異なる方がワイドなディレイ効果を得られます。数ミリ秒でワイド感が得られ、それ以上の設定では、スラップバック効果や、より極端な効果が得られます。

Sense（Sensitivity） - センシティビティー（感度）
設定レンジ：-50 ～ 0 dB
入力信号のレベルと連動してどの時点でディレイの反復成分を聴こえる様にするかを指定します。ギター信号とディレイ成分のスレッショルドと解釈することができます。

Damp - ダンピング
設定レンジ： 0 ～ 100 dB
概要で説明されている通り、ダイナミック・ディレイは入力レベルに連動してディレイの反復成分のレベルを調節します。Damp は、アッテネートの量を設定します。

Rel（Release） - リリース
設定レンジ： 20 ～ 1000 ms
ダイナミック・ディレイによるアッテネーションが終了する際に要する時間を設定します。

Dual Delay - デュアル・ディレイ

デュアル・ディレイは、2 つの独立したディレイを同時に作動させます。それぞれ独立してテンポ、ハイ／ローカット、パンを指定できます。

このディレイ・タイプでは、「ディレイの共通パラメータ」セクションの内容に加えて、次の追加パラメータが用意されています。

Pan 1 & Pan 2 - パン 1 & パン 2
設定レンジ： 50L ～ 50R
各ディレイ・ラインのパンニング位置を指定します。

Reverse Delay - リバース・ディレイ

リバース・ディレイは、ミステリアスでエギゾチックなサウンドを演出します。Feedback Hi-Cut パラメータでディレイのサウンドを和らげることができます。

このディレイ・タイプのパラメータは、「ディレイの共通パラメータ」セクションの内容をご参照ください。

このディレイ・タイプのディレイ・タイム設定レンジは、50 ms ～ 800 ms です。

Reverb - リバーブ

概要

リバーブは、残響を生成します。G-Major 2 は、4 種類のクラシックなリバーブを搭載しています。それぞれは共通のパラメータを持ちますが、同じ設定でも得られるサウンドは異なります。

Spring - スプリング

ヴィンテージのギターアンプなどに内蔵される、往年のスプリング・リバーブのサウンドを再現します。

Hall - ホール

比較的大きいホールを想定し、ナチュラルな音響特性を念頭にデザインされています。中間から長めのディケイタイムを要求する素材に優れた適応性を発揮する、汎用性の高いリバーブです。

Room - ルーム

内装された比較的小さい部屋を想定しています。多くの反射は内装の柔らかい素材により吸収され、音の反射と残響の持続は壁面が主成分となります。

Plate - プレート

デジタル世代以前のリバーブ機は、反響するスプリングか大きな鉄板を用いてリバーブの効果を生成していました。鉄板を使用した機器はプレート・リバーブと呼ばれ、拡散的でブライトな音を特徴としています。ナチュラルに溶け込む音ではなく、エフェクトを目立たせる用途に適しています。

これらの解説は、目的に応じてリバーブの種類を選ぶ際の目安としてご使用ください。「リバーブ」と一言でくくってもサウンドは幅広いため、実験する際には、様々なタイプで各種の設定をお試しいただくことをお勧めいたします。

リバーブの共通パラメータ

Decay - ディケイ

設定レンジ： 0.1 ～ 20 sec

余韻の減衰時間を指定します。この時間は、拡散音場がおよそ 60 dB 減衰する時間として定義されます。

PreDly（Pre Delay）- プリディレイ

設定レンジ： 0 ～ 100 ms

原音と拡散音場の間に挿入される短いディレイです。リバーブ音が原音の輪郭を損なわない様に原音とリバーブの拡散音場を分離させる効果が得られます。

Shape - シェイプ

空間の形状は、リバーブの特性に大きい影響を与えます。様々な設定をお試しください。

Size - サイズ

設定レンジ： Small ／ Medium ／ Large

ディケイ・タイムは全てのリバーブ・タイプで 0.1 から 20 秒まで設定できますが、このパラメータで空間の全体的な大きさを指定できます。よりリアルな余韻の長い大きい空間を得るには、ここでの設定を Large にしてください。同様に、それよりも小さい空間を得るには、Medium か Small を選択します。

しかしながら、求めるサウンドが必ずしもリアルな効果を必要としているとは限りません。意図的に逆の設定を行なうことによって効果的なサウンドを得られるかもしれません。

Hi Col（High Color） & Lo Col（Low Color）- ハイ／ロー・カラー

設定レンジ： Hi Col ー Wool ／ Warm ／ Real ／ Clear ／ Bright ／ Crisp ／ Glass

Lo Col ー Thick ／ Round ／ Real ／ Light ／ Tight ／ Thin ／ NoBass

ローとハイの成分において、異なるカラーのリバーブが得られます。ダークでアンビエントな効果からブライトなものまで、設定によってリバーブの特性が大幅に変化します。

REVERB - リバーブ

HiFact（High Factor）& LoFact（Low Factor）- ハイ／ロー・ファクター
設定レンジ：-25 ～ 25
選択した Hi Color と Lo Color タイプの特徴を強調またはアッテネートします。

RoomLv（Room Level） - ルーム・レベル
設定レンジ：-100 ～ 0 dB
リバーブの初期反射音のレベルを指定します。

RevLev（Reverb Level） - リバーブ・レベル
設定レンジ：-100 ～ 0 dB
リバーブの拡散音場のレベルを指定します。

Diff（Diffuse） - ディフュージョン（拡散）
設定レンジ：-25 ～ 25
リバーブの拡散音場の密度を調節します。ディケイ・タイムを指定すると自動的に設定され、余韻のフラッターを最小限に抑えます。

Mix - ミックス
設定レンジ： 0 ～ 100 %
このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル
設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Guitar Effects Processor G-Major 2 – February 2009

Function	Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default	1	1
	Changed	1 to 16	1 to 16
Mode	Default		
	Messages	X	X
	Altered		
Note Number		X	X
	True Voice	X	X
Velocity	Note ON	X	X
	Note OFF	X	X
After Touch	Keys	X	X
	Ch's	X	X
Pitch Bend		X	X
Control Change		0 to 127	0 to 127
Prog Change		O	O
System Excl.		O	O
Common	Song Pos	X	X
	Song Sel	X	X
	Tune	X	X
System real time	Clock	X	O
	Commands	X	X
Aux Messages	Local ON/OFF	X	X
	All Notes OFF	X	X
	Active Sense	X	X
	Reset	X	X

O:YES Mode 1: OMNI ON, POLY Mode 2: OMNI ON, MONO
X:NO Mode 3: OMNI OFF, POLY Mode 4: OMNI OFF, MONO

技術仕様

アナログ入力

コネクター	1/4"フォーンジャック、バランス
インピーダンス	21 k Ω（バランス）／13 k Ω（アンバランス）
最大入力レベル	+24 dBu
0 dBFS 到達最低入力レベル	0 dBu
感度 @ 12 dB ヘッドルーム	-12 dBu ～ +12 dBu
A/D 変換	24 ビット、128x オーバーサンプリング・ビットストリーム
A/D 変換遅延	0.65 ms ／ 0.70 ms @ 48 kHz ／ 44.1 kHz
ダイナミックレンジ	100 dB typ.、20 Hz ～ 20 kHz
THD	typ. < 92 dB （0.0025 %） @ 1 kHz
周波数特性	+0/-0.1 dB @ 48 kHz、20 Hz ～ 20 kHz
クロストーク	<-95 dB、20 Hz ～ 20 kHz

アナログ出力

コネクター	1/4"フォーンジャック、バランス
インピーダンス	40 Ω
最大出力レベル	+20 dBu（バランス）
出力レンジ	バランス： 20 ／ 14 ／ 8 ／ 2 dBu アンバランス／ 14 ／ 8 ／ 2 dBu
D/A 変換	24 ビット、128x オーバーサンプリング・ビットストリーム
D/A 変換遅延	0.63 ms ／ 0.68 ms @ 48 kHz ／ 44.1 kHz
ダイナミックレンジ	104 dB typ.、20 Hz ～ 20 kHz
THD	typ. <-94 dB（0.002 %）@ 1 kHz、+20 dBu 出力
周波数特性	+0/-0.5 dB @ 48 kHz、20 Hz ～ 20 kHz
クロストーク	<-100 dB、20 Hz ～ 20 kHz

EMC

準拠基準	EN 55103-1 and EN 55103-2 FCC part 15, Class B, CISPR 22, Class B
承認基準	IEC 65, EN 60065, UL6500 and CSA E65

環境

作動環境温度	0 ° C ～ 50 ° C（32 ° F ～ 122 ° F ）
保管環境温度	-30 ° C ～ 70 ° C（-22 ° F ～ 167 ° F ）
湿度	最大 90%（結露なきこと）

コントロール・インターフェイス

MIDI	In ／ Out ／ Thru ： 5 ピン DIN
ペダル	1/4"フォーンジャック
リレー・クロージャー（TIP/RING は個別にスリーブに結線）	1/4"フォーンジャック

一般

仕上げ	アノダイズ・アルミニウム・フロント、プレートならびにペイント・スチール・シャーシ
ディスプレイ	23 キャラクター／ 280 アイコン STN-LCD
寸法	483 × 44 × 195 mm（19"× 1.75"× 8.2" ）
重量	1.85 kg（4.1 lb.）
電圧	100 ～ 240 VAC、50 ／ 60 Hz （自動選択）
消費電力	<15 W
保証	1 年

製品の改良のため、仕様は予告なく変更となる場合がございます。

このセクションでは、G-Major 2 に関する一般的な質問にお答えします。より詳細の情報やサポートをお求めの場合は、TC のオンライン・サポート・サイト、TC Support Interactive（http://tcjsupport.custhelp.com）をご参照ください。

G-Major 2 との組み合わせにはどの MIDI フットコントローラーが最も適していますか？
G-Major 2 は多くの MIDI フットコントローラーでご使用いただけますが、G-Major 2 の多彩な機能をフルに活用するには、MIDI プログラムチェンジと MIDI コントロールチェンジ（CC）情報を両方送信できるものをご選択ください。コントロールチェンジ情報は、オンとオフでそれぞれ 0 と 127 の値を切り替えられるものをご選択ください。

コントロールチェンジ情報は、エフェクトのバイパスやタップ・テンポなどに使用します。プログラムチェンジ情報はプリセットのリコールに使用します。

インプット・レベルはどうやって調節するのですか？
まずは高レベルのクリーントーンを使います。一般的には歪み系の方がクリーントーンよりも音量が大きいと思われがちですが、通常はクリーントーんで一番大きいダイナミックレンジが得られます。インプット・メーターが通常は -12 dB 〜 -6 dB 程度、そして演奏のピーク時で -3 dB 近辺になるように設定します。

G-Major 2 フロントパネルのインプット・レベルや、プリアンプのアウトプット・レベル（または G-Major 2 の直前に配線されている機器）の調節で最適なレベルが得られない場合は、GLOBAL メニューの Input Range パラメータでインプット・レンジの設定を変更してみてください。

G-Major 2 と MIDI コントロール対応のプリアンプを組み合わせる方法は？
設定はシンプルです。

- MIDI フットペダルの MIDI Out を、プリアンプの MIDI In に接続します。
- プリアンプの MIDI Thru/Out を、G-Major 2 の MIDI In に接続します。

G-Major 2 は MIDI マッピング機能を装備していますので、受信プログラムチェンジ情報ごとにリコールするプリセット番号を指定できます。詳細は、18 ページをご参照ください。

G-Major 2 を工場出荷時の状態に戻したいのですが、どのような手順で操作すればよいのでしょうか？
- フロントパネルのボタンで G-Major 2 の電源を落とします。
- RECALL を押しながら電源を投入します。
- 表示されるメニューで「Reset sys param」を選択すると、ユーザー・プリセットは保持したままシステム関連のパラメータがリセットされます。
- 「Clear all Presets」を選択すると、全てのユーザー・プリセットが消去されます。ファクトリー・プリセットは消去できません。

アナログ・プリアンプのチャンネルをスイッチングする方法がわかりません。
アンプの製造者または代理店から、プリアンプの回路図を入手してください。G-Major 2 のリレーの操作方法は 24 ページをご参照ください。

G-Major 2 を電源をオン／オフしたら、エディットしていたプリセットの内容が消えてしまいました。
プリセットのエディット中に G-Major 2 の電源ケーブルを抜いてしまうと、エディット内容は失われます。フロントパネルのパワー・ボタンで電源のオン／オフを行なえば、内容は失われません。

プリセットをエディットする場合は、原則として、本体をオフにする前に保存しておくことをお勧めいたします。再度オンにした時に、そのセッティングを保存し忘れかねません。

システム・ソフトウェア（ファームウェア）をアップデートできますか？
今後、G-Major 2 の新しいシステム・ソフトウェアが供給される可能性があります。このソフトウェアを G-Major 2 に転送するには、標準 PC または Mac、そして MIDI インターフェイスが必要となります。ソフトウェアは TC ウェブサイトで公開されます。アップデートの方法については、ウェブサイト、またはダウンロード・ファイルの添付書類をご参照ください。

FAQ

G-Major2 のソフトウェア・アップデートがうまくいきません。
使用する MIDI インターフェイスによっては「Download Error」（ダウンロード・エラー）が生じる可能性があります。通常は、数回試すことでアップデートを行なえます。

G-Major 2 をコンボのエフェクト・ループに入れる方法がわかりません。
多くのコンボ・アンプはエフェクト・ループを装備しています。しかしながら、ループの仕様に標準はなく、場合によってはシリアル・ループなのかパラレル・ループなのかさえわからないことさえもあります。

シリアル・ループは、プリアンプとパワーアンプ・セクションの間を物理的に分離させるのと同様に、信号を一旦とぎらせて間にループの機器を挟みます。この場合は、プリアンプの出力全体が外部プロセッサー（この場合は G-Major 2）を通ってからパワーアンプ・セクションに送られます。信号は一方通行でプリアンプ→外部プロセッサー→パワーアンプ、と進みます。

パラレル・ループでは、プリアンプからパワーアンプへの 2 系統が二つ用意されています。一つ目はプリアンプからパワーアンプへの直接の系統で、これはすなわちループがない状態と同じです。二つ目の系統はプリアンプの信号をループを経由してエフェクト・プロセッサーに送り、その戻りをパワーアンプに送ります。これら二つの系統はパワーアンプの前でミックスされます。パラレル・ループのほとんどのアンプでは、エフェクトに原音をどれだけ加えるかを指定するミックス・ノブを装備しています。

パラレル・ループのセットアップを使う場合、G-Major 2 から原音を出力させるべきではありません。そうするには、LEVELS メニューの Kill Dry パラメータを使います。エフェクトの量の調節には、ブロック毎のアウトプット・パラメータを使います。

シリアルとパラレルはどっちが良いのでしょうか？
G-Major 2 の性能をフルに発揮させるには、シリアル・ループが適しています。これは、トレモロやコンプレッションなどのレベルを扱うエフェクト、そしてコーラスや EQ などについて特に言えることです。このマニュアルですでに述べられていますが、G-Major 2 は音質の劣化を防ぐ高品質 A/D-D/A コンバータを採用していますので、音質は特段心配する必要はないでしょう。

パラレル・ループは、ミックス機能を備えていないエフェクトを使う場合や、S/N 比が現代のものに比べて劣るヴィンテージ・エフェクトを使う場合に適しています。近年のヴィンテージ・エフェクトやコンパクト・エフェクトの盛り上りも、パラレル・ループがポピュラーになっている一因かもしれません。

しかしながら、上記のとおり、パラレル・ループは信号のボリュームを変えるエフェクト（トレモロ、コンプレッション、ノイズゲート等）には適していません。さらに、ループでエフェクトのドライとウェット信号を混ぜると、A/D-D/A 変化による位相がずれている状況が生じてします（G-Major 2 の場合、この遅延は 1 ms 以下です）。

原理的には、パラレル・エフェクト・ループのミックスを 100% にすれば、シリアル・ループとまったく同じになるはずですが、全てのアンプがそうであるとは言えない現状もあります。

まとめると、G-Major 2 自体はシリアルとパラレル・ループのどちらにも適応しますが、先に述べた理由から、技術的に可能な限りトゥルー・シリアルのループまたはセットアップで使用することをお勧めいたします。

ご使用のアンプのループの種類を確認するには、アンプの製造者にお問い合わせください。

本マニュアルについて
マニュアルの内容は予告なく変更となることがあります。最新版のマニュアルは弊社ウェブサイトからダウンロード可能です（www.tcelectronic.co.jp）。より詳細の情報やサポートをお求めの場合は、TC のオンライン・サポート・サイト、TC Support Interactive をご参照ください。

http://tcjsupport. custhelp.com